

愛知県美術館年報

目次

収集・保存・管理

- 1 収集……………4
 - 収集方針、収集の状況など
 - 新収蔵品
- 2 保存……………7
 - 保存事業の実施状況
- 3 管理……………8
 - 所蔵作品の貸出

展示・教育普及

- 1 所蔵作品展……………9
 - 所蔵作品の展示状況（展示リスト）
 - テーマ展（小企画展）
 - 三県立美術館協同企画展
 - 移動美術館
- 2 企画展……………26
 - 企画展一覧
 - 企画展の開催状況（各企画展ごと）
- 3 教育普及……………36
 - 出版・発行
 - 講演会・講座・シンポジウム等
 - 各種プログラムなど
 - 小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会
 - 児童、生徒を対象とした活動
 - 視覚に障害のある人を対象とした鑑賞会
 - 各種 団体利用対応（学校・一般）
 - 博物館実習等
 - 友の会

- 調査研究……………46
 - 調査研究の実施状況

- 組織・職員構成……………47

- 関係委員会名簿……………48

1 収集

収集方針

- ・20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・現在を刻印するにふさわしい作品
- ・愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

収集委員会（委員会名簿は48頁）

開催日：2006年12月4日

収集の状況

- ・上記の収集方針にそって9点の作品を購入し、230点の作品の寄贈を受け、合計239点の作品を新たに収集した。

美術品等収集状況

種別	購入		寄贈 点数
	点数	金額(円)	
日本画	0	0	0
洋画	1	600,000	11
立体	2	4,000,000	0
版画	1	400,000	18
水彩・素描	2	3,100,000	2
写真	1	3,000,000	195
インスタレーション	1	2,800,000	0
工芸	1	2,000,000	4
計	9	税込 15,900,000	230

新収蔵作品

1999（平成11）年度に基金による購入が原則凍結されて以降、収集方針に則した中心的な作品の購入は難しくなっている。2002（平成14）年度からの基金執行の凍結解除を受けて以降は、限られた収集費の中ではあるが、現代の美術動向を中心に収集を進め、コレクションの形成に努めている。

2006（平成18）年度は染谷亜里可《Decolor-Level 3》をはじめ9作家9点を購入した。また、企画展開催を機に東松照明氏より《皮肉な誕生・名古屋》をはじめとする写真195点の寄贈のほか、1995（平成7）年の企画展開催以降の作家との交流の結果としてアンドリュー・ワイエス夫妻からの《氷塊Ⅰ》（水彩）などをはじめ10作家35点の寄贈を受けた。これらは限られた作品購入をカバーし、コレクションの形成に寄与した。

収集作品一覧

購入作品

	種別	作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法（cm）
1	洋画	染谷亜里可	Decolor-Level 3	2001	脱色したヴェルヴェット、パネル	107.0×285.0
2	水彩・素描	エミコ・サワラギ・ギルバート	ニア・ベイⅠ-Ⅳ （※4点組）	2003	鉛筆、コピー紙	各 92.0×119.0
3	水彩・素描	宇佐美圭司	二重らせんをほどく	2005	水彩、紙	110.0×110.0
4	立体	イケムラレイコ	茶耳っ気のある	1993	陶	39.0×26.0×17.0
5	立体	黒川弘毅	Benne Bird No. 1	1979-81	ブロンズ	57.0×105.0×42.0
6	版画	原健	STROKES 90-20	1990	銅版、紙	153.0×109.0
7	写真	杉浦邦恵	子猫の書類（※7点組）	1992	ゼラチン・シルヴァー・プリント、アルミニウム板	各102.0×76.0
8	インスタレーション	さわひらき	Going Places Sitting Down	2004	コンピューターによる映像 プロジェクションとサウンド	4分55秒
9	工芸	藤井達吉	梅花文文箱	大正年間	七宝片・鉛・彩色、木	35.6×22.8×22.8

寄贈作品（230点）

	種別	作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法（cm）	寄贈者 氏名
1	洋画	吉川家永	方式`68-16	1968年	油彩、紙	163.0×148.0	吉川 家永
2	洋画	吉川家永	方式`70-27	1970年	油彩、紙	162.0×147.5	
3	洋画	吉川家永	位相`91~立入禁止B	1991年	モノクロ写真・板・ワイヤー・ホッチキス	90.5×180.2	
4	洋画	金子 滋	黄苔	1951年	油彩、画布	90.7×116.8	金子 貞子
5	洋画	金子 滋	白夜（龍神図一）	1958年	油彩、画布	160.5×129.5	
6	洋画	桑原佐吉	天平シリーズ`78-A	1978年	油彩、画布	193.9×162.2	桑原 久子
7	洋画	桑原佐吉	歴史のある街`94-B	1994年	油彩、画布	194.0×163.0	
8	洋画	遠山 清	静物	1929年頃	油彩、画布	90.5×73.0	中山とし子
9	洋画	竹田大助	失題3	1960年	パステル・クレヨン・ボンド、画布	90.9×116.7	竹田大助
10	洋画	竹田大助	失題10	1961年	パステル・クレヨン・ボンド、画布	162.1×130.3	

11	洋画	竹田大助	失題13	1961年	パステル・クレヨン・ボンド、画布	145.5×97.0	竹田大助
12	水彩・素描	アンドリュウ・ワイエス	氷塊 I	1968年	水彩、紙	53.0×75.9	アンドリュウ・ワイエス、ベッツィ・ジェームス・ワイエス
13	水彩・素描	エミコ・サワラギ・ギルバート	ニア・ベイ “ニルヴァーナ”	2003年	鉛筆、コピー紙	92.0×119.0	榎木英美子
14 ～ 28	版画	鈴木幹二	樹28 ほか計15点		木版、紙	—	鈴木シゲノ
29 ～ 31	版画	原 健	STROKES 93-12～14 (※1件3点)	1993年	木版、紙	各 60.0×60.0	ギャラリーアパ
32 ～ 226	写真	東松照明	皮肉な誕生・名古屋 ほか計195点		インクジェットプリント、印画紙	—	東松照明
227	工芸	藤井達吉	白梅図二曲屏風	1913年頃	彩色、木	171.0×171.4	鈴置恒子
228	工芸	藤井達吉	鵬瀨海草文壁掛	1913年頃	染色、布	94.0×93.0	
229	工芸	藤井達吉	蜻蛉文箱	1913～16年頃	螺鈿・七宝片・鉛・彩色、木	60.0×45.0×45.0	
230	工芸	藤井達吉	刺繍銀杏図壁掛	1913～23年頃	刺繍・彩色、布・皮	120.0×79.0	

寄託

新規寄託品

2006年度には新たに8件72点の寄託を受け、3件11点を寄託解除した。

寄託品の状況（2007年3月末現在）

分類	点数
日本画	23
洋画	112
立体	56
版画	77
水彩・素描	78
写真	5
資料	14
計	34件365点

美術品等取得基金について

愛知県美術館と陶磁資料館が、芸術的価値の高い美術品等を機動的、継続的に収集するための財源として1988（昭和63）年4月に設置された。基金には、県からの積立金のほかに、美術品等の収集を支援する民間からの寄付金が含まれている。

運用状況（2007年3月末現在）

基金総額		111億6,783万560円
運用内訳	美術品	95億0,161万1,130円 (1,335点)*
	現金	16億6,621万9,430円

*内、美術館所蔵作品は695点

2 保存

保存事業の実施状況

*所蔵作品の状態調査と保存処置等

保存処置を外部委託で行ったものは、下記の通り。

修復作業

- ・荻須高德《線路のある風景》
依頼先 浅井千晴（館内処置）
（技法材料：油彩・画布。修復内容：クリーニング 剥落留め ルースライニング）
- ・ハンス・アルプ《星座》
依頼先 浅井千晴（館内処置）
（技法材料：着色、木。修復内容：充填、補彩）
- ・歌川豊春《遊女図》
依頼先 文化財保存
（技法材料：紙本着色。修復内容：本格修理（打ち替え））
- ・作者不詳《春日宮曼荼羅図》
依頼先 文化財保存 2ヶ年事業
（技法材料：絹本着色。本格修理（打ち替え））
- ・作者不詳《愛染明王像》
依頼先 修美 2ヶ年事業
（技法材料：絹本着色。修復内容：本格修理（打ち替え））
- ・作者不詳《紺紙金泥解脱道論巻第七》
依頼先 修美 2ヶ年事業
（技法材料：紙本金銀泥。修復内容：本格修理）
- ・作者不詳《阿弥陀三尊来迎図》
依頼先 半田九清堂 2ヶ年事業
（技法材料：絹本着色。修復内容：本格修理（打ち替え））

状態調査

- ・木村定三コレクションの日本画、考古遺物、彫刻、書籍 70点
依頼先 東京文化財研究所、文化財保存、元興寺文化財研究所、元興寺文化財研究所、名古屋大学年代測定総合研究センター、岡墨光堂、光影堂、半田九清堂
- ・ルイズ・ニーヴェルスン《漂う天界》
依頼先 大原秀之

*保存環境の整備等

収蔵庫内の環境改善のために、友の会のサポート活動による収蔵用具の製作などを行った。また、虫菌害対策として、低酸素処理方法の導入を本格化させた。地震対策としては、収蔵庫の棚について、大地震発生時に転倒が懸念されていた部分の配列を変え上部を連結させた。

*普及事業

11月4日に、保存修復を題材としたシンポジウム「作品をまもり、伝える美術館—ある仏画（木村定三コレクション）の修復をめぐって」を開催し、研究報告書にまとめるほか、ホームページ上で広く公開した。

3 管理

作品の管理

- ・2005年度からの年次計画をもとに、備品台帳と所蔵作品リスト、作品カードとの照合整理を行い、現品確認作業を実施した。
- ・木村定三コレクションの調査整理を3年計画の事業の3ヶ年目として、全作品の画像とデータを収録したCD目録を作成した。
- ・寄贈作品の大量受け入れにともない、2005年度に引き続き、収蔵庫内の作品収納棚等の改修を行い、作品収納場所の変更や整理を行った。

作品の貸出

内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、保存状態が良好で、所蔵作品展の展示計画に支障がないものについて、展覧会の内容やその意義を勘案し、所蔵作品貸出要領に則って貸出を行った。また、この貸出も、所蔵作品公開の機会とも位置づけ、各会場での入場者状況把握を行った。

貸出の概要

貸出先		件数	点数
国内	美術館・博物館	47件	555点
	県関係機関	5件	48点
国外	美術館・博物館	1件	1点
計		53件	604点

1 所蔵作品展

展示の概要

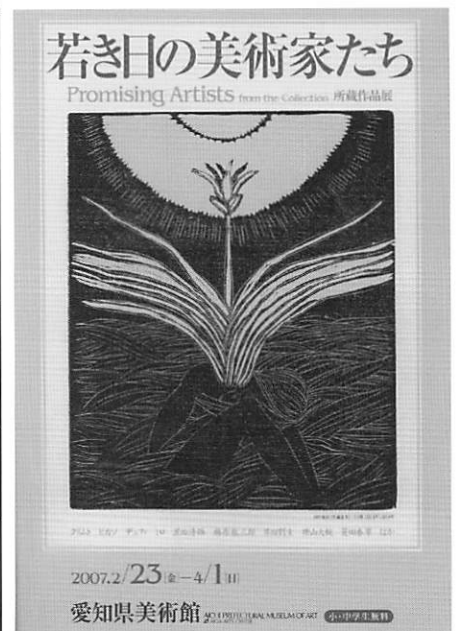
県民がいつでも20世紀の美術の展開やその特質に触れることができる展示を提供すると同時に、来館者の多様化する関心に考慮して、各期に、企画展と関連する時代や作家、あるいは一つのまとまりのある美術傾向や作品群に焦点をあてた特集展示を行なった。

2001年度から年に一度全館を使用して開催している全館所蔵作品展のうち、展示室1から3では、愛知県が芸術文化センターを会場に開催した「新進アーティストの発見inあいち」にも関連をもたせるかたちで「若き日の美術家たち」と題して、各作家の若い時代の制作に焦点をあてた展示を行った。テーマ展では、真島直子の制作を紹介した。

数多くの美術品の寄贈を受けた木村定三コレクションについては、展示室1室ないし2室をあてて常時公開した。

2006（平成18）年所蔵作品展開催状況と入場者数

2006年度第Ⅰ期	2006年6月2日－10月1日 [96日間] 入場者数29,115人（1日平均304人）
前期（6月2日－7月23日）	小企画：「桑山忠明 ワンルームプロジェクト2006」（展示室6） 特集等：「20世紀美術の問いかけ」 「2005年度新収蔵作品展」 「木村定三コレクション 日本の彫刻・工芸」
後期（8月4日－10月1日）	特集等：「国吉康雄－アメリカを生きた画家－」 「20世紀美術の断面」 「木村定三コレクション 家のイメージ」
2006年度第Ⅱ期	2006年10月13日－2007年2月12日 [93日間] 入場者数62,539人（1日平均673人）
前期（10月13日－12月10日）	特集等：「20世紀の美術」 「キュビズムとその後の展開」 「開かれた窓」 「木村定三コレクションの熊谷守一」
後期（12月20日－2月12日）	テーマ展：真島直子「地ごく楽」（展示室6） 特集等：「20世紀の美術」 「1950・60年代の美術」 「戦後の日本画」 「木村定三コレクション 素朴をめぐる」
2006年度第Ⅲ期	2007年2月23日－4月8日 [39日間] 〔ただし「若き日の美術家たち」は4月1日まで〕 入場者数6,411人（1日平均206人）
特集等：「20世紀の美術」	「杉戸 洋」 「日本の版画表現の拡大」 「木村定三コレクション：木村定三が支援した若き美術家たち」
2006年度入場者合計	107,924人（1日平均408人、総開催日数 265日）



※ただし入場者合計は、2006年4月1日から2007年3月31日までの総入場者数である。

そのため、2005年度第Ⅲ期のうち、4月1日から5月21日までを含む。

また、2006年度第Ⅲ期は、2007年2月23日から3月31日までの入場者数である。

所蔵作品展 展示作品リスト

■2006年（平成18）年度第1期

前期は、所蔵作品展の中心をなす20世紀の美術については「20世紀美術の問いかけ」と題して、美術家たちが既成の価値観を問い、新しい造形の可能性を追究してきたことを取りあげて構成した。また、昨年度の新収蔵作品を特集して紹介するとともに、前年度末からの小企画「桑山忠明」を継続展示した。

後期は、「愉しき〈家〉」展の出品作家1名が所蔵作品展内の空間を用いた展示を行ったため、これを包含したかたちの展示構成をした。また、まとめて寄託を受けている国吉康雄を特集した。

前期 2006年6月2日－10月1日（96日間）

展示室4 20世紀美術の問いかけ

<絵画>

ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺	1906
アメデオ・モディリアーニ カリアティード	1911-13
ジャコモ・バッラ 太陽の前を通過する水星（習作）	1914
アンリ・マティス 待つ	1921-22
パウル・クレー 女の館	1921
神原泰 生命の流動	1924
藤田嗣治 青衣の少女	1925
ジョアン・ミロ 絵画	1925
ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海 I	1927
古賀春江 夏山	1927
長谷川利行 酒売場	1927
里見勝蔵 裸婦	1928-1929頃
ジョージア・オキーフ 抽象 第6番	1928
村井正誠 ゴルフジュアンの船	1929
海老原喜之助 ゲレンデ	1930
ベン・ニコルソン 1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー 日の当たる庭	1935
北川民次 南国の花	1940

ポール・デルヴォー こだま（あるいは「街路の神秘」）	1943
マックス・エルンスト ポーランドの騎士	1954
<彫刻>	
オーギュスト・ロダン 歩く人	1900
エルンスト・バルラッハ 忘我	1911-12
レイモン・デュシャン＝ヴィヨン 恋人たち	1913

展示室5 20世紀美術の問いかけ

<絵画>

ニコラ・ド・スタール コンポジション	1948
アド・ラインハート No. 114	1950
ジャン・デュビュッフェ 二人の脱走兵	1953
オノサトシノブ 三つの黒	1958
サム・フランシス 消失に向かう地点の青	1958
デヴィッド・スミス チャイニーズ・レストラン	1959
ルーチョ・フォンターナ 空間概念	1960
元永定正 作品	1961
斎藤義重 作品	1962
久野真 鉛による作品	1962
ジョーゼフ・アルパース 正方形類	1962
白髪一雄 作品	1963

菅井汲 ナショナル・ルート NO. 11	1964
桑山忠明 茶白青	1968
フランク・ステラ River of Ponds IV	1969
ロバート・ラウシェンバーク プレビュー（白霜エディション）	1974
アンディ・ウォーホル レディーズ・アンド・ジェントルメン	1975
上田薫 なま玉子G	1976
アントニ・タビエス コンポジション	1977
クリスト 包まれた旧ドイツ新聞国会議事堂ベルリンのためのプロジェクト	1986
アグネス・マーティン 無題# 3	1991
吉澤美香 へーII	1992
中村一美 破舎仏涅槃図I	1993-95
松本陽子 光は荒野の中に拡散している	1993
辰野登恵子 Untitled 95-1	1995
根岸芳郎 1977/11/18	1997
<立体>	
ジム・ダイン 芝刈機	1962
ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
細井篤 ボーダーズ・ゲーム	2004
展示室6 桑山忠明ワンルーム・プロジェクト 2006	
桑山忠明 無題	2001

*展示作品のうち3組は2005年度新収蔵作品です。

展示室7 2005年度新収蔵作品展

<絵画・平面作品>

新見虚舟 大島の女	1928頃
新見虚舟 藻魚図	1930頃
新見虚舟 朝餉の白川女	1936
竹田大助 パンチュールE	1952
竹田大助 パンチュールF	1952
竹田大助 牧神の朝	1953
竹田大助 黎明同期	1955
竹田大助 断片	1957-1979
田口安男 つながりあや手	1979
田口安男 空を呼ぶ	1979
田口安男 タタラ火より	1980
沢居曜子 Carbon-Work 11-9	1977
沢居曜子 Line-Work VII-78-6	1978
沢居曜子 Line-Work VI-79-15	1979
沢居曜子 Line-Work VI-79-17	1979

<立体>

毛利武士郎 無題	1954
-------------	------

展示室8 木村定三コレクション 日本の彫刻・工芸

<彫刻>

毘沙門天立像	平安時代 12世紀
--------	-----------

不動明王立像	平安時代 12世紀
天部像	平安時代 12世紀
金銅菩薩像 白鳳時代(飛鳥時代後期) 7世紀後半~8世紀初め	
木造冥官立像	江戸時代 19世紀頃
木造女神坐像	鎌倉時代 13世紀
木造女神坐像	室町時代 15世紀
木造男女神坐像	室町時代 15世紀
木造男女神坐像	室町時代 15世紀
木造男女神坐像	室町時代 15世紀
木造獅子座	室町時代 15世紀
木造獅子狛犬	桃山時代 17世紀
獅子孔雀文髹	室町時代 14末-16世紀後半
金銅孔雀文髹	室町時代 14末-16世紀後半
金銅蓮華式髹	江戸時代 17世紀前半-19世紀後半
蓮蝶文髹	平安末-鎌倉時代
鉦鼓	鎌倉~南北時代
銅鑄製経筒	1147年(平安後期)

前室1 2005年度新収蔵作品

中澤英明

中澤英明 子供の顔 クマ	2001
中澤英明 子供の顔 寝ぐせ	2003
中澤英明 子供の顔 ベサメ・ムーチョ	2003
中澤英明 子供の顔 地蔵	2004
中澤英明 子供の顔 米	2004

前室2

<絵画>

山口長男 庭	1935
香月泰男 サッカー	1970
杉戸洋 The Tub	2002

<立体>

アレクサンダー・コールドー ゴースト	1976
篠原猛史 真っ直ぐな曲線	2004

ラウンジ

<立体>

多和圭三 泉 一想一	2002
---------------	------

ロビー

<絵画>

モーリス・ルイス デルタ・ミュー	1960-61
---------------------	---------

屋外展示スペース

<彫刻・立体>

コルネリス・ジットマン カリブの女	1983
アルナルド・ホモドーロ 飛躍の瞬間	1984
加藤昭男 大地	1986
小田 襄 門柱の構造	1988
今井瑠郎 大地	1992

後期 2006年8月4日(金) - 10月1日(日)

展示室4 20世紀の美術の断面

<絵画>

フランツ・フォン・シュトゥック	ギリシア神話	制作年不詳
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
エミール・ノルデ	静物I(アマゾン、能面等)	1915
エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭	1935
エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
北川民次	岩山に茂る	1940
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ポール・デルヴォー	こだま(あるいは「街路の神秘」)	1943
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
パウル・クレー	女の館	1921

<彫刻>

ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897
エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-12
エルンスト・バルラッハ	母なる大地II	1920
ケーテ・コルヴィッツ	恋人たちII	1913
メダルド・ロソフ	病める子	1893

<版画>

ヴィルヘルム・レームブルック	母と子(幻影II)	1913
マックス・ベックマン	自画像	1919

マックス・ベックマン	あくびをする人達	1918
エミール・ノルデ	おしゃべり	1917
ケーテ・コルヴィッツ	畠を耕す者	1906
ケーテ・コルヴィッツ	死の膝に抱かれる女	1921
エミール・ノルデ	自画像	1908
マックス・ベックマン	カフェミュージック	1918
ジェームズ・アンソール	悪魔の戦い	1888
田中恭吉	そこにもみかがやくひかり	1914
田中恭吉	ひそめるもの	1914
藤森静雄	夜のピアノ	1914
藤森静雄	ピアノと木	1914
藤森静雄	こころのかげ	1914
藤森静雄	妹は病みぬ	1914
藤森静雄	わがかげ	1914
恩地孝四郎	底のくろしみ	1914
恩地孝四郎	抒情II	1914
恩地孝四郎	抒情VIII(われいかる)	1914
恩地孝四郎	抒情IX(のぞみすてず)	1914

展示室5 20世紀の美術の断面

<絵画>

ジャーコモ・バッラ	太陽の前を通過する水星(習作)	1914
パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女	1902
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933

アメデオ・モディリアアーニ	カリアティード	1911-13
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
アンリ・マティス	待つ	1921-22
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-61
榎倉康二	干渉(Story-No. 49)	1992

<彫刻・立体>

若林脩	大気中の緑色に属するものI	1982
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ジム・ダイン	芝刈機	1962
イヴ・クライン	アルマン	1962
西村陽平	Iron Container for Mummified Magazines	1992
原裕治	アボクリファ No. 1	1994
北山善夫	はなはだ大きいと言うべきである	1984
出原次郎	星虫の死骸	1993
千崎千恵夫	無題	1992
岡本敦夫/野田裕示	地殻-潜むかたち	1996

「愉しき家」展展示作品

西野達	普通以上の時もあるし、普通以下の時もある	2006
-----	----------------------	------

展示室6 20世紀の美術の断面

<絵画>

丹羽和子	朱い糸	1980
福沢一郎	餓鬼	1972

中村宏		
内乱期		1958
池田龍雄		
黒い機械		1956
三上誠		
環 I・経絡		1967
中村正義		
舞妓		1974
中村正義		
顔		1976
中村正義		
顔		1976
谷川晃一		
ペリカン反射		1965
奈良美智		
Walking with Small Steps		1995

展示室7 [特集展示] 国吉康雄
—アメリカを生きた画家—

<絵画>

国吉康雄		
りんご		1919-20
国吉康雄		
ニューイングランドの家畜小屋		1920代
国吉康雄		
ポウルのいちじく		1925
国吉康雄		
果物（鉢の洋梨とバナナ）		1920
国吉康雄		
なすび		1921
国吉康雄		
鉢のぶどう、バナナなど		1927
国吉康雄		
雑草と太陽		1923
国吉康雄		
ぶどう		1934
国吉康雄		
静物（メロン、葡萄、梨）		1929
国吉康雄		
クッキー		1941
国吉康雄		
机の上の梨と葡萄		1945
国吉康雄		
荒天		1936
国吉康雄		
ハニーカムヒル		1941
国吉康雄		
クリッブル・クリーク		1941

国吉康雄		
タスコ(メキシコ) No. 1		1935
国吉康雄		
タスコ(メキシコ) No. 2		1935
国吉康雄		
ケープ・コッド		1940
国吉康雄		
木の根		1940
国吉康雄		
ロックポートへの道		1940
国吉康雄		
廃鉱		1941
国吉康雄		
廃村		1941
国吉康雄		
鉱山の町		1941
国吉康雄		
魚のある静物		1948

展示室8 木村定三コレクション

<絵画>

岡本柳南		
桃花流水		1927
岡本柳南		
夏山雨後		1927
岡本柳南		
秋月閑居		1927
岡本柳南		
雪裏松亭		1927
小川芋銭		
卯月の芭蕉庵		1935
小川芋銭		
海島秋來（稿本）		1932以前
尾崎良二		
浜ごうの咲く浜（伊良湖）		1975
長谷川利行		
霊岸島の倉庫		1937
熊谷守一		
雨水		1959
上司海雲		
壺中天		
香月泰男		
海（ペーチカ）		1966
香月泰男		
風船売り		1960

<版画>

浜田知明		
初年兵哀歌（銃架の影）		1951
<書蹟>		
上司海雲		
壺中天		制作年不詳
<陶磁器>		
唐津皮鯨杯 銘 蘇鉄 桃山時代、17世紀初め		
青木木米		
交趾写三足香炉		江戸時代、19世紀
黒織部茶碗 銘 隅田川 桃山時代、17世紀初め		
紙被天目		宋、13世紀
今井康人		
伊賀大壺		1985頃

<彫刻>

石造三尊仏龕像		北魏、6世紀前半
---------	--	----------

<考古・工芸>

素弁蓮華文軒丸瓦		三国時代 新羅、7世紀半ば
鬼面文鬼瓦		統一新羅、8-9世紀
方形三尊塼仏（橘寺）		白鳳時代、7世紀後半
青銅 五鈴変形獣文鏡		古墳時代、4-5世紀
銅鑄製経筒及び陶製経筒外容器		平安時代後期
螺鈿楼閣人物文四方盆		明 15-16世紀
錫 四花形茶托		清、17-19世紀

前室1

<立体・彫刻>

オシップ・ザッキン		
チェロのトルソ		1956-57
戸張孤雁		
女の面部		制作年不詳
中村梯二郎		
平櫛田中像		1919-21

本郷新		
無辜の民「仏生」	1970	

エミール=アントワーン・ブールデル		
両手のペーターペン	1908	

前室2

<絵画>

近藤文雄		
あいつ	1962	

近藤文雄		
裁き	1962	

近藤文雄		
さらしもの(3)	1964	

近藤文雄		
M氏の肖像	1966	

近藤文雄		
6人の盲人たち	1968	

近藤文雄		
連なるとみえて	1968	

国吉康雄		
藤椅子に座る女	1931	

吉本弘		
窓辺(居間にて)	1980	

<彫刻・立体>

アレクサンダー・コールダー		
ゴースト	1976	

工藤哲巳		
無限の糸の中のマルセル・デュシャン	1977	

篠原猛史		
真っ直ぐな曲線	2004	

屋外展示スペース

<彫刻・立体>

コルネリス・ジットマン		
カリブの女	1983	

アルナルド・ボモドーロ		
飛躍の瞬間	1984	

加藤昭男		
大地	1986	

小田 襄		
円柱の構造	1988	

今井踵郎		
大地	1992	

■2006年(平成18)年度第II期

前期は20世紀の美術を中心にした展示構成を行い、また木村定三コレクションでは展示室を2部屋用いて熊谷守一を特集した。

後期は、テーマ展として名古屋出身の美術家、真島直子を取り上げた。

前期 2006年10月13日(金) - 12月10日(日)

前室1

<絵画>

パブロ・ピカソ		
青い肩掛けの女	1902	

展示室4 キュビズムとその後の展開

<版画>

パブロ・ピカソ		
静物 果物皿	1909	

パブロ・ピカソ		
男の顔	1912	

パブロ・ピカソ		
男と犬	1914	

パブロ・ピカソ		
ギターを持つ男	1915	

パブロ・ピカソ		
レオノー嬢(マックス・ジャコブ『聖マトレル』のための挿絵)	1910	

パブロ・ピカソ		
テーブル(マックス・ジャコブ『聖マトレル』のための挿絵)	1910	

パブロ・ピカソ		
長椅子のレオノー嬢(マックス・ジャコブ『聖マトレル』のための挿絵)	1910	

パブロ・ピカソ		
修道院(マックス・ジャコブ『聖マトレル』のための挿絵)	1910	

ジョルジュ・ブラック		
裸体習作	1907-08	

ジョルジュ・ブラック		
小さなキュビズム的ギター	1909-10	

ジョルジュ・ブラック		
BASS	1911	

ジョルジュ・ブラック		
FOX	1911	

ジョルジュ・ブラック		
PAL	1911	

ジョルジュ・ブラック		
JOB	1911	

ジョルジュ・ブラック		
コンポジション(静物I)	1911	

ジョルジュ・ブラック		
コンポジション(グラスのある静物)	1912	

ルイ・マルクーシ		
ギョーム・アプリネールの肖像	1912-20	

ジャック・ヴィヨン		
食卓	1913	

ジャック・ヴィヨン		
横顔のイヴォンス	1913	

ジャック・ヴィヨン		
機械のある工場	1914	

<立体>

レイモン・デュシャン=ヴィヨン		
恋人たち	1913	

<素描>

ジャーコモ・バッラ		
太陽の前を通過する水星(習作)	1914	

<絵画>

ジャック・ヴィヨン		
存在	1920	

フランティシェク・クプカ		
灰色と金色の展開	1919	

アメデオ・モディリアーニ		
カリアティード	1911-13	

<版画>

カシ米尔・マレーヴィチ		
祈り	1913	

カシ米尔・マレーヴィチ		
建設者の完全な肖像	1913	

カシ米尔・マレーヴィチ		
農婦	1913	

カシ米尔・マレーヴィチ		
飛行機と汽車に乗った男の同時の死	1913	

<素描>

ロベール・ドロローネー 「カーディフチーム」習作	1913-22頃
-----------------------------	----------

<版画>

ヴァシリー・カンディンスキー たのしき飛翔 (『バウハウス・マイスター版画作品集 1923』)	1923
--	------

ライオネル・ファイニンガー 無題 (『バウハウス・マイスター版画作品集 1923』)	1918
---	------

<素描>

フランシス・ピカビア 糸巻き	1921-22
-------------------	---------

<版画>

ラースロー・モホリ=ナジ コンストラクション	1922-23
---------------------------	---------

ラースロー・モホリ=ナジ コンストラクション	1922-23
---------------------------	---------

ラースロー・モホリ=ナジ コンストラクション	1922-23
---------------------------	---------

ラースロー・モホリ=ナジ 無題 (『バウハウス・マイスター版画作品集 1923』)	1923
--	------

<絵画>

ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海 I	1927
--------------------------	------

ベン・ニコルソン 1933 (スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
-------------------------------------	------

<版画>

フランティシェク・クブカ 白と黒の4つの物語	1926
---------------------------	------

展示室5 20世紀の美術

<立体>

オーギュスト・ロダン 歩く人	1900
-------------------	------

<絵画>

アルベール・マルケ ノートルダムの後陣	1902
------------------------	------

ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺	1906
-----------------------	------

中村彝 静物	1915頃
-----------	-------

安井曾太郎 婦人像	1912頃
--------------	-------

エミール・ノルデ 静物I (アマゾン、能面等)	1915
----------------------------	------

古賀春江 夏山	1927
------------	------

長谷川利行 酒売場	1927
--------------	------

ピエール・ボナール にぎやかな風景	1913頃
----------------------	-------

藤田嗣治 青衣の少女	1925
---------------	------

海老原喜之助 ゲレンデ	1930
----------------	------

宮田重雄 パリ・サンルイ病院裏	1930
--------------------	------

三岸節子 魚とインカの壺	1951
-----------------	------

山口薫 ボタン雪と騎手	1953
----------------	------

脇田和 断層の人と鳥	1960
---------------	------

パウル・クレー 女の館	1921
----------------	------

ジョージア・オキーフ 抽象 第6番	1928
----------------------	------

ジョアン・ミロ 絵画	1925
---------------	------

マックス・エルンスト ポーランドの騎士	1954
------------------------	------

ポール・デルヴォー こだま (あるいは「街路の神秘」)	1943
--------------------------------	------

難波田龍起 原初の風景B	1987
-----------------	------

<立体>

ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
------------------------------	------

ジム・ダイン 芝刈機	1962
---------------	------

<絵画>

猪熊弦一郎 地図の中の日曜日	1979
-------------------	------

モーリス・ルイス デルタ・ミュー	1960-61
---------------------	---------

<立体>

イヴ・クライン アルマン	1962
-----------------	------

<絵画>

宇佐美主司 ビック・バン	1987
-----------------	------

中村一美 破舎仏涅槃図 I	1993-95
------------------	---------

杉戸洋 the Second Lounge	2002
--------------------------	------

<立体>

舟越桂 肩で眠る月	1996
--------------	------

展示室6 開かれた窓

<絵画>

高橋由一 不忍池	1880頃
-------------	-------

森芳雄 小路・巴里	1963
--------------	------

エルンスト=ルートヴィヒ・キルヒナー 日の当たる庭	1935
------------------------------	------

アンリ・マティス 待つ	1921-22
----------------	---------

村井正誠 ゴルフジュアンの船	1929
-------------------	------

桑山忠明 茶白青	1968
-------------	------

ルーチョ・フォンターナ 空間概念	1960
---------------------	------

展示室7 [特集展示]

木村定三コレクション：熊谷守一

<絵画>

熊谷守一 線裸	1927
------------	------

熊谷守一 裸	1937
-----------	------

熊谷守一 高原	1940
------------	------

熊谷守一 麦畑	1939
------------	------

熊谷守一 蓼科牧	1951
-------------	------

熊谷守一 西日	1955
------------	------

熊谷守一 漁村	1954
------------	------

熊谷守一	ハルシャ菊	1954
熊谷守一	伸餅	1949
熊谷守一	石亀	1957
熊谷守一	氏家桃林	1956
熊谷守一	土饅頭	1954
熊谷守一	梅	1956
熊谷守一	百日草	1958
熊谷守一	水仙	1956
熊谷守一	白猫	1962
熊谷守一	三毛猫	1959
熊谷守一	猫	1963
熊谷守一	猫	1963
熊谷守一	猫	1965
熊谷守一	雨水	1959
熊谷守一	たまご	1959
熊谷守一	瓜	1965

展示室 8 [特集展示]
木村定三コレクション：熊谷守一

<日本画・書>

熊谷守一	心月輪	1940
熊谷守一	蟻の会話	1944

熊谷守一	山吹に蜂	制作年不詳
熊谷守一	蒼蠅	1941
熊谷守一	無	1940
熊谷守一	北冥魚化而為鯢	制作年不詳
熊谷守一	大鵬	制作年不詳
熊谷守一	鳥	1944
熊谷守一	からす	1950
熊谷守一	ほとけさま	1950
熊谷守一	観世音菩薩	1940
熊谷守一	拾得	1958
熊谷守一	二匹蝦蟆	1954
熊谷守一	蝦蟆に蟻	1938
熊谷守一	蒲公英に蝦蟆	1938
熊谷守一	椿に黒つぐみ	1966
熊谷守一	金太郎	1964
熊谷守一	虎に羽子	制作年不詳
熊谷守一	蝶にゼラニウム	1965
熊谷守一	かけすに紅葉	1965
熊谷守一	ドクダミに蛭蝶	1960代
熊谷守一	猫	制作年不詳

後期 2006年12月20日（水）—2007年2月12日（月・振替休）

展示室 4 20世紀の美術

<絵画>

黒田清輝	暖き日	1897
------	-----	------

山下新太郎	白耳義の少女	1909
中村彝	少女裸像	1914

<立体>

前室 2

<絵画>

山口長男	庭	1935
------	---	------

<立体>

アレクサンダー・コールダー	ゴースト	1976
---------------	------	------

<彫刻>

熊谷守一	はだか	1952
------	-----	------

<陶磁器>

熊谷守一	丁斑魚図皿	制作年不詳
------	-------	-------

<立体>

アレクサンダー・コールダー	肩膝ついて	1944
---------------	-------	------

屋外展示スペース

<彫刻・立体>

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ホモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井瑠郎	大地	1992

オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
------------	-----	------

<絵画>

グスタフ・クリムト	人生は戦いなり（黄金の騎士）	1903
-----------	----------------	------

アルベール・マルケ ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺	1906
アンリ・マティス 待つ	1921-22
ピエール・ボナール にぎやかな風景	1913頃
アメデオ・モディリアーニ 黒い瞳の女	1918
アメデオ・モディリアーニ カリアティード	1911-13
藤田嗣治 青衣の少女	1925頃
パブロ・ピカソ 青い肩掛けの女	1902
野口弥太郎 門	1931頃
エルンスト=ルートヴィヒ・キルヒナー 日の当たる庭	1935
エミール・ノルデ 静物L(アマゾン、能面等)	1915
〈立体〉	
レイモン・デュシャン=ヴィヨン 恋人たち	1913
〈絵画〉	
フランティšek・クプカ 灰色と金色の展開	1919
ジャック・ヴィヨン 存在	1920
〈立体〉	
オシップ・ザツキン チェロのトルソ	1956-7
〈絵画〉	
パウル・クレー 女の館	1921
ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海I	1927
ジョアン・ミロ 絵画	1925
マックス・エルンスト ポーランドの騎士	1954
ポール・デルヴォー こだま(あるいは「街路の神秘」)	1943

ジョージア・オキーフ 抽象 第6番	1928
展示室5 特集：1950・60年代の美術	
〈絵画〉	
ニコラ・ド・スタール コンポジション	1948
ジャン・デュビュッフエ 二人の脱走兵	1953
真島建三 原始言語	1963
白髪一雄 作品	1963
元永定正 作品	1961
〈立体〉	
毛利武上郎 無題	1954
〈絵画〉	
杉全直 窪んだ空間B	1958
田淵安一 鬼に金棒	1953
水谷勇夫 口上人	1960
竹田大助 黎明同期	1955
瑛九 白い輪	1954
齊藤義重 作品	1962
田淵安一 有機的表象	1955
堂本尚郎 絵画1962-25	1962
アントニ・タピエス コンポジション	1977
山口長男 屏形	1963
サム・フランシス 消失に向かう地点の青	1958
アグネス・マーティン 無題#3	1991
アド・ラインハート No. 114	1950

フランク・ステラ リヴァー・オブ・ポンズ IV	1969
桑山忠明 茶白青	1968
オノサト トシノブ 三つの黒	1958
菅井汲 ナショナル・ルート No. 11	1964
モーリス・ルイス デルタ・ミュー	1960-61
〈立体〉	
ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
〈絵画〉	
猪熊弦一郎 マンハッタンA	1966
アンディ・ウォーホル レディース・アンド・ジェントルメン	1975
ロバート・ラウシェンバーグ プレビュー(白霜エディション)	1974
デヴィッド・スミス チャイニーズ・レストラン	1959
〈立体〉	
イヴ・クライン アルマン	1962
展示室6 テーマ展 真島直子「地ごく楽」	
展示室7 戦後の日本画	
〈絵画〉	
池田遥邨 稲掛け	1981
小松均 富士山(上)・(下)	1977
東山魁夷 雪の山郷	1991
上村松篁 玄鶴	1968
吉田善彦 雨余桂林	1982
田淵俊夫 すぎばやし	1989
麻田鷹司 鬼界ヶ島	1982

後藤純男 春映法隆寺	1980
---------------	------

**展示室8 木村定三コレクション：
素朴をめぐるって**

〈絵画〉

猫と鼠図	江戸時代17世紀
若衆図	江戸時代18世紀
熊谷守一 少女	1963
香月泰男 風船売り	1960
香月泰男 懸垂	1960
長谷川利行 ノアノアの少女	1937
長谷川利行 霊岸島の倉庫	1937
須田剋太 村祭り	1985
小田まゆみ 女	
南桂子 二羽の鳥	1966
南桂子 海辺の少女	1969
小林研三 〈小さい旅〉より 小島達よ夕暮に安らかなまどいを	
小林研三 〈小さい旅〉より 白い風景のボコ	

〈立体・彫刻〉

ライオン	アフリカ 19世紀
------	-----------

人面装飾壺	エクアドル 500-1534 (統合期)
-------	----------------------

動物装飾容器	エクアドル 500-1534 (統合期)
--------	----------------------

土偶	エクアドル 500-1534 (統合期)
----	----------------------

蟬	漢 BC2c-AD2c
---	-------------

蛙	前漢 BC2-1c
---	-----------

加藤孝一 太郎 花子	1960代
---------------	-------

〈陶磁器〉

青磁象嵌茶碗 銘 狂言袴	朝鮮時代 15世紀
--------------	-----------

三島茶碗 銘 花兜	朝鮮時代 15世紀
-----------	-----------

熊川茶碗	朝鮮時代 16世紀
------	-----------

斗々屋茶碗 銘 閑寂	朝鮮時代 16世紀
------------	-----------

堅手茶碗	朝鮮時代 17世紀
------	-----------

安南茶碗 銘 入船	17世紀
-----------	------

ラウンジ

エミール=アントワヌ・プールデル ベネローブ	1909
---------------------------	------

前室1

山口勝弘 ヴィトリース	1955
----------------	------

前室2

〈立体〉

アレクサンダー・コールダー 片膝について	1944
-------------------------	------

アレクサンダー・コールダー ゴースト	1976
-----------------------	------

〈絵画〉

中村彝 静物	1915頃
-----------	-------

本郷新 無辜の民「油田地帯」	1970
-------------------	------

山口長男 庭	1935
-----------	------

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン カリブの女	1983
----------------------	------

アルナルド・ポモドーロ 飛躍の瞬間	1984
----------------------	------

加藤昭男 大地	1986
------------	------

小田 襄 円柱の構造	1988
---------------	------

今井璋郎 大地	1992
------------	------

■2006年（平成18）年度第Ⅲ期

全館所蔵作品展 若き日の美術家たち（展示室1-3）

歴史に名を残す美術家たちの多くが、若き日に芸術の理想を求めて模索を重ねたり、既成の価値観に対する挑戦を繰り返したりしながら、新しい美術動向を生み出してきた。全館所蔵作品展のうち、展示室1-3の「若き日の美術家たち」では、そのような美術家たちの若い時代の制作活動に焦点をあてた。この展示は、愛知県が本年度から取り組む、若い芸術家たちの育成事業とも連携したものである。

2006年2月23日（金）-4月8日（日）

若き日の美術家たち

展示室1

田中恭吉 冬蟲夏草	1914
--------------	------

1章 若き美術家たちの群像

1. ウィーンに花開いた新しき芸術

フランツ・フォン・シュトゥック ギリシャ神話	制作年不詳
---------------------------	-------

レオ・ブツ 花と女	制作年不詳
--------------	-------

ジョルジュ・ミンヌ 聖遺物箱を担ぐ少年	1879
オスカー・ココシュカ 夢みる少年たち	1908
グスタフ・クリムト 17歳のエミーリエ・フレーゲの肖像	1891
グスタフ・クリムト 人生は戦いなり（黄金の騎士）	1903
エゴン・シーレ しゃがみこむ女	1914
第18回ウィーン分離派展カタログ	1903
ハインリヒ・レフラー H. C. アンデルセン『王女と豚』	1979
ウィーン工房年鑑	1905頃
カール・オットー・チェシュカ カミィの夢とジークフリートの闘争、フランク・ラウレンス・ヘンデル	1908

2. 《月映》

恩地孝四郎、田中恭吉、藤森静二 《月映》I～IV	1913～1914
カール・シュミット＝ロットルフ 草刈る人（ブリュッケ展カタログ版画集）	
エーリヒ・ヘッケル 眠る男（ブリュッケ展カタログ版画集）	
マックス・ベヒシュタイン 裸婦坐像（ブリュッケ展カタログ版画集）	
エーリヒ・ヘッケル 男と女（ブリュッケ展カタログ版画集）	
ジャーコモ・バッラ 太陽の前を通過する水星（習作）	1914
ヴァシリー・カンディンスキー 夕暮れ	1903
ヴァシリー・カンディンスキー 鏡	1907
カシ米尔・マレーヴィチ 農婦	1913
カシ米尔・マレーヴィチ 飛行機と汽車に乗った男の同時の死	1913
メダル・ド・ロッソ 病める子	1893

展示室2

1章 若き美術家たちの肖像

1. 自己との対話

--	--

アンドリュウ・ワイエス 自画像	1938
藤田嗣治 自画像	1923
佐伯祐三 自画像	1917
河野通勢 自画像	1917
大沢鉦一郎 自画像	1919
宮脇晴 自画像	1920
宮脇晴 烏打帽の自画像	1922
宮脇晴 鉢巻の自画像	1925
三上誠 自画像	1940頃
三上誠 帽子をかぶる自画像	1942頃
三上誠 肖像（横顔）	1949頃

2. 自己の表現を求めて

浅井忠 八王子付近の街	1887
山本芳翠 西洋裸婦	1882頃
久米桂一郎 秋景	1892
黒田清輝 暖かき日	1897
青木繁 太田の森	1902
梅原龍三郎 横臥裸婦	1908
梅原龍三郎 若き羅馬人	1909
安井曾太郎 婦人像	1912頃
安井曾太郎 承德喇嘛廟	1938
安井曾太郎 風景	1905
安井曾太郎 人体（女）	1907
中村彝 少女裸婦	1914

岸田劉生 高須光治君之肖像	1915
斎藤与里氏像	1913
村山槐多 信州風景	1914-15
木村莊八 壺を持つ女	1915
大沢鉦一郎 大曾根風景	1919
長谷川利行 酒売場	1927
松本竣介 ニコライ堂	1941
山本鼎 漁夫	1904
山本鼎 風景	1917
谷中安規 飛ぶ首	1927
谷中安規 自画像	1932
谷中安規 朝鮮（民家）	1932
谷中安規 蝶を吐く人	1933
谷中安規 虎ねむる	1933
谷中安規 ゴンドラの月	1936
深沢索一 丘上走土	1925
太田三郎 カフェの女	1914
川村澄生 異国雨の夕景	1925(24)
藤牧義夫 銀行	1933
藤牧義夫 まくら橋	1934
荻原守衛 女の胴	1907
戸張孤雁 煌めく嫉妬	1924
3. 若き美術家たちが集う芸術の都	
ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺	1906

アルベール・マルケ		
ノートルダムの後陣	1911-13	
アレクサンダー・アーキペンコ		
歩く女	1912	
ジョアン・ミロ		
絵画	1925	
パブロ・ピカソ		
青い肩掛けの女	1902	
アメデオ・モディリアーニ		
キャリアティード	1911-13	
村井正誠		
ゴルフジュアンの船	1929	
林俊衛		
サント・ヴィクトワール	1925	
川島理一郎		
伎場の囃	1925	
佐分真		
アバッシュ・シャルボニエ	1931頃	
木下孝則		
読書	1931	
藤田嗣治		
青衣の女	1925	
伊藤廉		
肘をつく女	1929	
前田寛治		
褐衣婦人像	1925	

第2章 若き美術家たちの挑戦

1. 日本画の挑戦者たち

山元春挙		
溪村暮@囃	1900頃	
横山大観		
飛泉	1900	
菱田春草		
紅葉山水	1908	
伊東深水		
大島の黎明	1916	
前田青邨		
江ノ島詣	1917	
前田青邨		
雨の蘇州	1919	
小茂田青樹		
漁村早春	1921	
小茂田青樹		
柿	1919	
速水御舟		
西郊小景	1923	

中村岳陵		
芦に白鷺鶴鶴囃	1921頃	
入江波光		
南畝小景	1923	
加山又造		
黒い鳥	1957	
中村正義		
人物	1958頃	
中村正義		
ピエロ	1963	
中村正義		
舞妓	1974	
田淵俊夫		
青木ヶ原	1969	
水谷勇夫		
担夫	1960	
石川英鳳		
猿候の囃	1935頃	
村上華岳		
梅溪山道	1914	
萬鉄五郎		
砂丘風雨	1919-27	
土田麦僊		
南国早春	1915	

2. 新しい可能性を求めて

山口勝弘		
ヴィトリース	1955	
金子滋		
黄苔	1951	
金子滋		
白夜（龍神囃）	1918	
元永定正		
作品	1961	
白髪一雄		
作品	1963	
宇佐美圭司		
遠い歩み	1964	
イヴ・クライン		
アルマン	1962	
出原次朗		
逃げるものとはじこめる	1993	
久野真		
石膏による作品P.L3x6-U	1957	
秋山陽		
Pho II	1959	
谷川晃一		
ペリカン反射	1965	

竹田大助		
黎明同期	1955	
竹田大助		
牧神の朝	1955	
竹田大助		
失題10	1961	
稲葉桂		
土にかえるもの	1965	

第3章 若き日とその後

エルnst＝ルートヴィヒ・キルヒナー		
三本の道	1917	
日の当たる庭	1935	
グラスのある静物	1912	
マルツェラ（ブリュッケ展カタログ版画集）		
水浴び（ブリュッケ展カタログ版画集）	1897	
パウル・クレー		
回心した女の墜落	1939	
恋人		
喜劇役者	1904	
女の館	1921	
情熱の園	1913	
国吉康雄		
帽子の女	1920頃	
荒天	1936	
頭に腕を回す女の頭部	1916-17	
足を触る裸婦	1916-17	
カフェNo. 2	1935	
立っている裸婦	1936-41	
カーニバル	1949	
杉本健吉		
宇治川	1973	
冬瓜とわさび	昭和初期	

風景 (冬木立)	1927
東大寺二月堂湯屋付近	1949
ヨーロッパ風景	1985頃

展示室 4・5 20世紀美術

<絵画>

ピエール・ボナール にぎやかな風景	1913頃
ピエール・ボナール 子供と猫	1906頃
アンリ・マティス 待つ	1921-22
アメデオ・モディリアーニ 黒い瞳の女	
レイモン・デュシャン=ヴィヨン 恋人たち	1913
海老原喜之助 雪山と樵	1930
エミール・ノルデ 静物L (アマゾン、能面等)	1915
野口弥太郎 門	1931頃

<絵画>

フランティšek・クプカ 灰色と金色の展開	1919
--------------------------	------

<立体>

オシップ・ザツキン チェロのトルソ	1956-7
ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海 I	1927
ポール・デルヴォー こだま (あるいは「街路の神秘」)	1943
ニコラ・ド・スタール コンポジション	1948
ジャン・デュビュッフエ 二人の脱走兵	1953
猪熊弦一郎 マンハッタン A	1966
サム・フランシス 消失に向かう地点の青	1958
サム・フランシス 春	1984-88

瑛九 黄色い花	1957-58
難波田龍起 原初的風景 B	1961
アグネス・マーティン 無題 # 3	1991
アド・ラインハート No. 114	1950
ジョーゼフ・アルバース 正方形頌	1962
山田正亮 Work No. B 182	1958
フランク・ステラ リヴァー・オブ・ボンズ IV	1969
桑山忠明 茶白青	1968
オノサト・トシノブ 三つの黒	1958
菅井汲 ナショナルルート No. 11	1964
堀内正和 四角と丸の組み合わせ b	1956
荒川修作 作品	1963
三尾公三 Fiction Space (X)	1974
宇佐美圭司 ビッグ・バン	1987
杉浦邦恵 子猫の書類 (7点組)	1992
エミコ・サワラギ・ギルバート ニア・ベイ I-IV	2003
ニア・ベイ "ニアルバーナ"	2003
沢居曜子 Carbon-Work II-9	1977
Line-Work VII-78-3	1978
Line-Work VII-78-6	1978
Line-Work VII-78-7	1978
Line-Work VII-78-12	1978
Line-Work VI-79-14	1979
Line-Work VI-79-15	1979

Line-Work VI-79-17	1979
辰野登恵子 Aug.-Oct. 1992 (4点)	1992
浅野弥衛 作品	1979
モーリス・ルイス デルタ・ミュー	1960-61
染谷重里可 Decolor-Level 3	2001
根岸芳郎 1977-11-18	1977
榎倉康二 干渉 (Story No. 49)	1992
細井篤 ボーダーズ・ゲーム	2004

展示室 6 杉戸洋

杉戸洋 the Rainbow Wall	2002
the Sccond Lounge	2002
the Wave	2002
the Tub	2002

展示室 7 日本の版画表現の拡大

長谷川潔 小鳥と落葉	1959
餃子独楽と幸福の星	1961
清宮質文 いずこへ	1963
駒井哲郎 夜の魚	1951
海底の祭	1951
時間の迷路	1952
蝕果実	1960
魔法陣	1973
浜口陽三 ざくろ	1957
黒いさくらんぼ	1961

浜田知明 仮標	1954
刑場A	1954
瑛九 驚き	1951
作品	不詳
作品	不詳
輪	1957
鬚嘔 海野原Ⅲ	1978
池田満寿夫 タエコの朝食	1963
オノサト・シノブ 作品	1971
吉原英雄 シーソー 1	1968
中林忠良 転位' 84-地- 1	1984
黒崎彰 四つの風	1999
加納光於 稲妻捕りL	1977
原健 STROKE 90-20	1990
展示室 8 木村定三コレクション： 木村定三が支援した若き美術家たち	
<絵画>	
野田哲也 日記 1979年 8月10日	1979
野田哲也 日記 1978年 2月10日	1978
尾崎良二 海鶴	1969
尾崎良二 白川女	1968
尾崎良二 自転車	1968
尾崎良二 竹登り	1969

鷺見啓 蕩々少女	1977
<陶磁器>	
上田恒次 練上墨流茶碗 銘 大鷲飛翔	1975
上田恒次 練上墨流茶碗 銘 森の妖精	1975
上田恒次 辰砂茶碗	
上田恒次 赤絵五彩梅文箱	
上田恒次 白磁瓜形花瓶	
上田恒次 練上鶉手楯円鉢	
今井康人 伊賀一重切花入	
今井康人 伊賀耳付花入	1993頃
今井康人 伊賀水指 銘 猿猴遠望	
今井康人 伊賀茶碗 銘 水郷樹林	1991
今井康人 伊賀大壺	1985頃
今井康人 伊賀平鉢	
岩田安弘 耀彩天目茶碗 銘 極楽浄土	1995
岩田安弘 真珠天目茶碗	1996
岩田安弘 白黄天目茶碗	1996
岩田安弘 紅天目茶碗	1996
岩田安弘 耀彩天目水指	1995
岩田安弘 耀彩天目長首花入	1995
直木美佐 黒楽茶碗 銘 溪水樹林	1999
直木美佐 黒楽茶碗 銘 唐衣・妖精洞	1999以前

直木美佐 黒楽茶碗 銘 沢泉	1999
直木美佐 赤楽茶碗 銘 三吉野	1999以前
中田一於 淡桜釉裏銀彩花瓶	
松林 廣 烏黒天目茶碗 銘 玄中玄	1984
松林 廣 菊花天目茶碗	1980
中尾恭純 白磁千段壺	
大島英一郎 赤絵トランプ文ぐい呑	
大島英一郎 赤絵象ぐい呑	
大島英一郎 染付内金彩巻物香合	
大島英一郎 赤地金彩本型香合	
大島英一郎 染付内色絵烏香合	
前室 1	
エルンスト・バルラッハ 忘我	1911-12
母なる大地Ⅱ	1920
前室 2	
熊谷守一 水仙	1950
中村彝 静物	1915頃
山口長男 庭	1935
ロビー	
ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像	1965

平成18年度テーマ展

真島直子「地ごく楽」

会 期：2006年12月20日（金）

～2007年2月12日（月・振休）[42日間]

会 場：展示室6

担当学芸員：木本文平

2002年の第10回アジアアートビエンナーレ・バングラディシュ
・2001で、グランプリを受賞し話題となった名古屋出身の画家
・真島直子の鉛筆による絵画《地ごく楽》シリーズの近作5点と
オブジェの2点を展示した。

真島のこのシリーズの絵画作品は、巨大な紙の上に鉛筆を用いて描かれたもので、無数の微粒子の集積がひとつの生命体のような形態を誕生させている。作者は鉛筆で描いたこの一連の自作を、一般に絵画の従属的な位置づけとされるドローイングではなく、それ自体が絵画として成立したものと意味づける「鉛筆画」と呼んでいる。

これらの鉛筆画は、アトリエの床面に敷かれた紙の上に、柔らかく濃い線がだせる4Bの鉛筆を用いて、シュルレアリスムの技法であるオートマティスムのように連綿と微粒子が描かれている。やがてその微粒子の集積は巨大な形体を創り出し、見る者にひとつの生命体を感じさせる。と同時に密林や奇景図、さらには地図や磁場などを描いたかのような様々なイメージを想起させるのである。

本展覧会は、真島直子が名古屋出身ということもあり、また、作家の父・真島健三は福沢一郎に師事し、戦前から戦後にかけて当地方の前衛的な活動を展開したことから、多くの関係者が来館した。加えて、開催時期がギャラリーの卒業制作展と重なったこともあり、若い人々の入場も多く、年代層を超え様々な感動を与えたテーマ展であったと思われる。

関連事業

○アーティスト・トーク（友の会共催事業）

講 師：真島直子

日 時：2007年1月13日 13:30～ 40名

主要関連記事

【新聞】

・(陽)「真島直子 地ごく楽」

『中日新聞』2007年1月11日 夕刊

・小林裕子「生と死のはざまへ誘う 真島直子展」

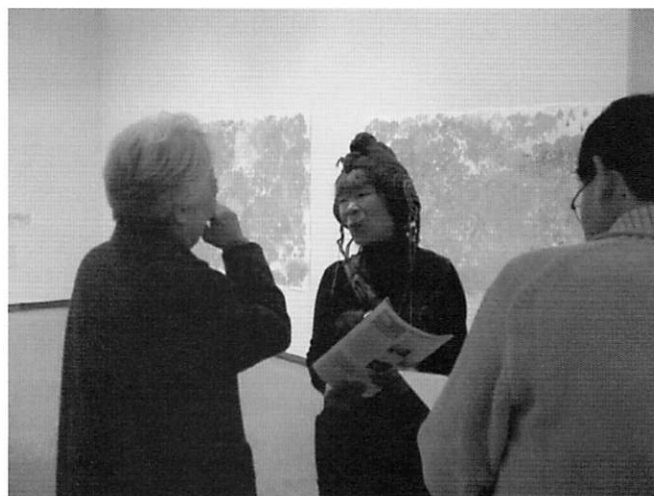
『朝日新聞』2007年1月23日 朝刊

・日沖隆「生死を凝視する描線群」

『名古屋タイムズ』2007年2月6日

出品作品7点

- ①《地ごく楽2005-4》2005年 鉛筆、紙 114.0×240.0
- ②《地ごく楽2003-3》2003年 鉛筆、紙 137.4×329.8
- ③《地ごく楽2006》 2006年 鉛筆、紙 15.0×97.75×6
- ④《地ごく楽2003-2》2003年 鉛筆、紙 400.0×153.0
- ⑤《地ごく楽2004-2》2004年 鉛筆、紙 114.0×539.0
- ⑥《地ごく楽2005-1》2005年 ミクストメディア
68.0×85.0×115.0
- ⑦《地ごく楽2004 Succubas》
2004年 木、ガラス、紐
31.0×33.0×33.0



三県立美術館協同企画展

愛知・岐阜・三重 三県立美術館協同企画

「ルドンとその時代」

会場：岐阜県美術館

会期：2006年7月8日（土）～8月20日（日）

主催：岐阜県美術館、愛知県美術館、三重県立美術館、
中日新聞社

展示点数：206点（内、愛知県美術館所蔵作品33点）

入場者数：10,334人

愛知、岐阜、三重の三県立美術館の協力事業として、平成16年度に第1回として三重県立美術館で「20世紀美術の人間像」を開催した。今回が2回目の開催として、岐阜県美術館のコレクションのルドン作品を軸に、同時代の美術状況を明らかにするため愛知、三重両美術館の作品も加えて展示構成された。

愛知県美術館の所蔵作品から出品したものは、以下のとおりである。

エドゥアール・ヴエイヤール	《窓辺の女》	1898年
エドワード・ジョン・ポインター	《世界の若かりし頃》	1891年
ジェイムズ・アンソール	《キリストのブリュッセル入城》	1898年
グスタフ・クリムト	《人生は戦いなり（黄金の騎士）》	1903年
ピエール・ボナール	《子供と猫》	1906年頃
アルベール・マルケ	《ノートルダムの後陣》	1902年
パブロ・ピカソ	《果物皿のある静物》	1909年
オスカー・ココシュカ	版画集『夢見る少年たち』	
	「眠る女」	1907（出版1908）年
オスカー・ココシュカ	版画集『夢見る少年たち』	
	「船乗りが呼んでいる」	1907（出版1908）年
オスカー・ココシュカ	版画集『夢見る少年たち』	
	「眠る人びと」	1907（出版1908）年
オスカー・ココシュカ	版画集『夢見る少年たち』	
	「目覚める人びと」	1907（出版1908）年
オスカー・ココシュカ	版画集『夢見る少年たち』	
	「少女リーと僕」	1907（出版1908）年
ヴァシリー・カンディンスキー	《夕暮れ》	1903年
ヴァシリー・カンディンスキー	《鏡》	1907年
ケーテ・コルヴィッツ	《青い服の女工》	1903年
エミール・ノルデ	《騎士》	1906年
ピエール・ボナール	《にぎやかな風景》	1913年頃
エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	《グラスのある静物》	1912年
エミール・ノルデ	《静物L（アマゾン、能面等）》	1915年
フランティシェク・クプカ	《灰色と金色の展開》	1919年
ジャック・ヴィヨン	《存在》	1920年

クルト・シュヴィッターズ	《メルツ絵画52. 美容》	1920年
クルト・シュヴィッターズ	《メルツ絵画305. ロボジツ》	1921年
エゴン・シーレ	《しゃがみこむ女》	1914年
パブロ・ピカソ	《マックス・ジャコブ》	
	『聖マトレル』のための挿絵：修道院	1910年
パブロ・ピカソ	《男の頭部》	1911年
パブロ・ピカソ	《ギターを持つ男》	1915年
ジャック・ヴィヨン	《食卓》	1912-13年
ジャック・ヴィヨン	《横顔のイヴォンヌ》	1913年
ライオネル・ファイニンガー	《緑色の橋》	1910-1911年
ライオネル・ファイニンガー	《ダースドルフ》	1918年
エーリッヒ・ヘッケル	《疲れ》	1913年
エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	《三本の道》	1917年
マックス・ベックマン	《新年おめでとう》	1917年

関連協力事業：①作品鑑賞会（三館学芸員による）

7月21日（金）18：30～

村田真宏が参加

②美術館と学校をつなぐシンポジウム

「子どもを語ろうアートを語ろう」

8月13日（日）13：30～

高橋秀治がパネリストとして参加



移動美術館

教育普及活動の一環として、名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会などの事業を行う移動美術館を年1回開催している。これまで11回開催し、本年度は豊川市で開催した。

第1回	1995年度	南知多町総合体育館・サブアリーナ
第2回	1996年度	足助町トレーニングセンター
第3回	1997年度	渥美郷土資料館
第4回	1998年度	奥三河総合センター体育館（設楽町）
第5回	1999年度	吉良町農村環境改善センター
第6回	2000年度	新城文化会館
第7回	2001年度	立田村総合体育館
第8回	2002年度	高浜市やきもの里かわら美術館
第9回	2003年度	西尾市総合体育館
第10回	2004年度	蒲郡市博物館
第11回	2005年度	大口町歴史民俗資料館

名 称：愛知県美術館 平成18年度 移動美術館
「名画を愉しむ～20世紀美術を中心に～」

会 場：桜ヶ丘ミュージアム（豊川地域文化広場）

会 期：2006年12月1日（金）～12月24日（日）〔21日間〕

主 催：愛知県美術館、(財)愛知県文化振興事業団、豊川市

後 援：豊川市教育委員会

観 覧 者 数：6,413人（1日平均305人）

観 覧 料：無料

担当学芸員：馬淵美帆、小栗恵子

展 示 内 容：明治期から今日に至る日本の洋画を中心に、日本画や海外の作品を加えて展示。豊川地域ゆかりの作家の作品も多数出品。

1	エドワード・ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891年
2	藤井 達吉	桜図（藤井達吉コレクション）	1924年
3	村瀬 太乙	馬上狐図（木村定三コレクション）	1873年
4	小川 芋銭	山彦の谷（木村定三コレクション）	1921年
5	川崎 小虎	四季草花野菜絵巻の内 夏	1945年頃
6	高橋 由一	厨房具	1878年頃
7	久米 桂一郎	秋景	1892年
8	黒田 清輝	花と猫	1906年
9	青木 繁	太田の森	1902年
10	坂本 繁二郎	海岸の家	1915年
11	岸田 劉生	高須光治君之肖像	1915年
12	宮脇 晴	自画像	1920年
13	萬 鐵五郎	水郷風景	1926年
14	ピエール・ボナール	子供と猫	1906年頃
15	エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912年
16	エミール・アントワース・ブルデル	両手のペーターベン	1908年
17	島田 卓二	湯谷溪谷「瀧」	1924年
18	伊藤 廉	肘をつく女	1929年
19	大沢 鉦一郎	少女海水浴	1932年
20	安井 曾太郎	承徳喇嘛廟	1938年

21	北川 民次	南国の花	1940年
22	熊谷 守一	蒲公英に母子草（木村定三コレクション）	1959年
23	小磯 良平	婦人像	1965年
24	我妻 碧宇	暮色	1955年
25	平川 敏夫	萌林	1960年
26	中村 正義	ピエロ	1963年
27	近藤 文雄	6人の盲人たち	1968年
28	近藤 文雄	M氏の肖像	1966年
29	星野 真吾	喪中の作品（昇天）	1965年
30	高畑 郁子	聖界	1980年
31	大森 運夫	島の鬼太鼓	1976年
32	伊東 隆雄	地引網	1962年
33	林 武	ノートルダム	1960年
34	瑛九	黄色い花	1957-58年
35	森 芳雄	女たち	1954年
36	斉藤 吾郎	屋根の上の記念撮影	1973年
37	島田 章三	石庭女人図	1976年
38	榎尾 正次	葉っぱのように	1965年
39	堀内 正和	四角と丸の組合せb	1956年
40	舟越 保武	シオン	1979年
41	難波田 龍起	萌	1961年
42	ジョーゼフ・アルバース	正方形顔	1962年
43	宇佐美 圭司	遠い歩み	1964年
44	百瀬 寿	Square-NE XIV:Twelve Stripes	1987年
45	上田 薫	なま玉子G	1976年

関 連 事 業：①記念講演会「美術のたのしみ」 牧野研一郎

12月3日（日）14：00～ 入場者：45名

②ギャラリー・トーク（展示解説）

一般向け 古田浩俊

12月10日（日）11：00～ 入場者：28名

同 14：00～ 入場者：18名

③学校向け

豊川市内の小・中学生の学校団体を中心に実施。



2 企画展

1992年度から2006年度までの企画展の入場者数（展覧会別）

年度	展覧会タイトル	会 期		日数(日)	入場者(人)	一日平均(人)
92年度	フォーヴィスムと日本近代洋画	92/10/30	92/12/20	45	41343	919
	近代の日本画－西洋との出会いと対話	93/01/05	93/02/11	33	26166	793
	20世紀愛知の美術	93/02/19	93/03/21	27	11585	429
	年度合計			105	79,094	753
93年度	パウル・クレーの芸術	93/04/02	93/05/23	45	103,239	2,294
	小川芋銭展	93/06/04	93/07/04	27	26,106	967
	現代の陶芸1950-1990展	93/07/16	93/08/22	33	13,153	399
	安田靉彦展	93/09/03	93/10/17	39	43,003	1,103
	リール市美術館所蔵－バロック・ロココの絵画	93/10/29	94/01/16	63	47,042	747
	戸張孤雁と大正期の彫刻	94/01/25	94/03/06	36	7,996	222
	色彩の宇宙 クブカ展	94/03/18	94/05/08	45	33,652	748
	年度合計			288	274,191	952
	累 計			393	353,285	899
94年度	杉本健吉展	94/05/14	94/06/02	17	19,568	1,151
	シカゴ美術館展－近代絵画の100年－	94/06/10	94/07/24	38	89,204	2,348
	レジェ展	94/08/05	94/09/11	33	22,793	691
	聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵－アーヘン市立ズエルモント＝ルードヴィヒ美術館所蔵	94/09/23	94/11/03	37	27,976	756
	没後20年 香月泰男展	94/11/18	95/01/16	46	27,164	591
	アンドリュウ・ワイエス展－アメリカの郷愁 心の風景を描く	95/02/03	95/04/02	51	120,177	2,356
	年度合計			222	306,882	1,382
	累 計			615	660,167	1,073
95年度	ウィーンのジャポニスム	95/04/11	95/05/14	30	27,803	927
	フランツ・ゲルチュ	95/05/26	95/07/02	33	22,392	679
	還流－日韓現代美術展	95/07/14	95/09/03	45	25,072	557
	ウィンザー城王立図書館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図	95/09/15	95/10/15	27	68,439	2,535
	表現主義彫刻	95/10/27	96/01/15	64	12,428	194
	リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の接点	96/02/02	96/04/07	57	16,599	291
年度合計			256	172,733	675	
	累 計			871	832,900	956
96年度	大英博物館所蔵イタリア素描展	96/04/19	96/05/26	33	30,973	939
	抽象表現主義展－アメリカ黄金期の絵画	96/07/26	96/09/16	46	19,005	413
	富岡鉄斎展－理想郷を語る	96/09/27	96/11/10	39	25,680	659
	北川民次展－愛と人間をえがく	96/11/22	97/01/26	51	28,789	565
	カンディンスキーとミュンター 愛と創造の日々 1901-1917	97/02/08	97/03/16	32	22,891	715
	没後50年 ボナール展	97/03/28	97/05/18	45	54,094	1,202
年度合計			246	181,432	738	
	累 計			1,117	1,014,332	908
97年度	理智と幻想のシュルレアリスト 北脇昇展	97/05/30	97/07/13	39	15,951	409
	モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展	97/07/25	97/08/31	33	54,835	1,662
	20世紀美術の冒険－セザンヌ、ファン・ゴッホから現在まで－アムステルダム市立美術館コレクション展	97/09/12	97/11/03	46	31,750	690
	イタリア美術 1945-1995－見えるものと見えないもの	97/11/14	98/01/15	48	16,739	349
	近代美術の100年－愛知県美術館コレクションの精華－	98/01/30	98/03/08	33	17,985	545
	川合玉堂展－めぐりゆく季節－	98/03/20	98/05/05	41	70,936	1,730
年度合計			240	208,196	868	
	累 計			1,357	1,222,528	901
98年度	久野真・庄司達展－鉄の絵画と布の彫刻－	98/05/15	98/06/07	21	10,236	487
	ナイアガラの虹を越えて…オルブライト＝ノックス美術館展 名画への誘い	98/06/19	98/08/02	39	66,342	1,701
	生誕100年記念 佐伯祐三展	98/08/16	98/09/27	37	39,972	1,080
	アルトゥング展	98/10/09	98/12/13	57	18,845	331
	没後50年 松本竣介展	99/01/08	99/02/21	39	24,551	630
	ブッサンとラファエッロ 借用と創造の秘密	99/03/05	99/04/11	33	13,387	406

年度	展覧会タイトル	会期	日数(日)	入場者(人)	一日平均(人)
	年度合計		226	173,333	767
	累計		1,583	1,395,861	882
99年度	魔法の庭…詩とかたちのフーガ「ファウスト・メロッティ展」	99/04/23 99/06/13	45	13,614	303
	前田寛治の芸術 —詩情と造形—	99/07/02 99/08/22	45	14,851	330
	危機の時代と絵画 1930-1945	98/09/03 98/10/17	39	8,379	215
	生誕100年 関根正二展	99/10/29 99/12/12	39	22,719	583
	セザンヌ展	00/01/05 00/03/12	59	171,060	2,899
	年度合計		227	230,623	1,016
	累計		1,810	1,626,484	899
00年度	レンブラント・フェルメールとその時代 アムステルダム国立美術館所蔵17世紀オランダ美術展	00/04/07 00/06/18	63	104,226	1,654
	田中恭吉展	00/07/15 00/08/27	38	22,788	600
	加納光於展	00/09/15 00/11/05	45	11,606	258
	アメリカン・ドリームの世紀展	00/11/23 01/01/28	52	25,390	488
	岸田劉生展	01/02/09 01/04/01	45	38,752	861
	年度合計		243	202,762	834
	累計		2,053	1,829,246	891
01年度	メルツバッハー・コレクション展	01/04/13 01/05/27	39	47,245	1,211
	ロダンと日本	01/06/22 01/08/19	51	57,339	1,124
	バックミンスター・フラー展	01/09/14 01/11/04	45	10,962	244
	ボンベイ展	02/02/08 02/04/07	51	101,367	1,988
	年度合計		186	216,913	1,166
	累計		2,239	2,046,159	914
02年度	開館10周年記念 大英博物館所蔵フランス素描展	02/04/26 02/06/30	57	25,638	450
	開館10周年記念 韓国の色と光	02/07/26 02/09/23	52	10,652	205
	開館10周年記念 ミロ展	02/10/04 02/12/01	51	83,084	1,629
	開館10周年記念 中西夏之展	02/12/20 03/02/23	51	14,525	285
	年度合計		211	133,899	635
	累計		2,450	2,180,058	890
03年度	菱田春草展	03/04/11 03/05/18	33	53,578	1,624
	戸谷成雄 森の襲の行方	03/06/06 03/07/27	45	12,934	287
	レオン・スピリアールト展	03/08/05 03/09/23	43	15,674	365
	空海と高野山	03/10/10 03/11/24	40	109,612	2,740
	中村彝の全貌展	04/01/06 04/02/29	48	20,004	417
	年度合計		209	211,802	1,013
	累計		2,659	2,391,860	900
04年度	ベン・ニコルソン展	04/04/09 04/05/23	39	10,855	278
	野見山暁治展	04/06/04 04/07/19	40	7,310	183
	国吉康雄展	04/08/06 04/09/26	45	24,702	549
	木村定三コレクションによる熊谷守一展	04/10/08 04/12/05	51	17,555	344
	自然をめぐる千年の旅	05/03/11 05/05/08	51	63,052	1,236
	年度合計		226	123,474	546
	累計		2,885	2,515,334	872
05年度	アジアの潜在力 —海と島が育んだ美術—	05/05/24 05/07/10	42	8,109	193
	ゴッホ美術館、クレラー=ミュラー美術館所蔵作品によるゴッホ展 —孤高の画家の原風景—	05/07/26 05/09/25	54	423,745	7,847
	生誕100年記念 吉原治良展	05/12/16 06/02/26	57	12,651	222
	江戸絵画 —小世界を愉しむ— 木村定三コレクションの近世絵画	06/03/10 06/05/07	63	14,260	226
	年度合計		216	458,765	2,124
	累計		3,101	2,974,099	959
06年度	愛知曼陀羅—東松照明の原風景—	06/06/02 06/07/23	45	18,181	404
	愉しき「家」	06/08/04 06/10/01	51	13,831	271
	ベルシャ文明展	06/10/13 07/12/10	51	62,194	1,219
	ルソーの見た夢、ルソーに見る夢	07/12/20 07/02/12	42	35,389	842
	年度合計		189	129,595	685
	累計		3,290	3,103,694	943

2006年（平成18）年度の企画展開催状況

『愛知曼陀羅—東松照明の原風景—』

会 期：2006年6月2日（金）～7月23日（日）45日間
主 催：愛知県美術館／中日新聞社
後 援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／
中日写真協会
特別協力：愛知大学／愛知大学同窓会
協 力：EPSON／富士フイルムイメージング株式会社／
株式会社フレームマン／愛知県写真材料商協同組合
助 成：財団法人 地域創造
担当学芸員：牧野研一郎、古田浩俊
総入場者数：18,181人（1日平均入場者数：404人）
出品点数：ニュープリント195点、資料（写真4点、新聞1点、
カメラ2台、図書資料）

愛知県美術館が開催した初めての写真展。2000年の「長崎マンガラ」、2002年の「沖縄マンガラ」、2003年の「京まんだら」に続く東松のマンガラ・シリーズの一つに位置づけられる展覧会。1951年の愛知大学写真展に出品した最初期の作品に始まり、1960年代を通じて名古屋や瀬戸、一色やあるいは神島や四日市など愛知県を中心とする地域を取材した写真195点を展示。シリーズ作品としては〈焼き物の町・瀬戸〉が38点と一番多く、〈水害と日本人・一色〉23点、〈潮騒・神島〉15点、〈家・天草〉12点、〈織物の町・一宮〉11点、〈石油コンビナート・四日市〉10点、〈敗戦の記憶・豊川海軍工廠跡〉〈地方政治家・福井〉〈課長さん・名古屋〉がそれぞれ8点と1950-60年代の東松の重要なシリーズをほとんど網羅していた。195点は、撮影当時の傷んだフィルムをコンピューターにいったん取り込み、傷やカビを除去するなどの画像処理を施して最新のプリンターで印画紙に新たにプリントしたものである。その半分以上は今回初めてプリントされて発表されたものであった。

当館で開催する初めての写真展ということもあり、事前に入場者の予測がまったくできなかったが、結果的には目標を30パーセント近く上回る入場者が確保できた。展示にあたっては、他館から借用した参考写真やカメラ、関連書籍などに加え、テレビ番組を放映するなどして広がりのある展示ができた。入場者の満足度も高く、写真家東松への関心、写真そのものへの関心、写真に撮られたモチーフに対する関心などそれぞれのレベルで楽しめる展覧会であった。また、写真の展覧会ということで、それまで当館にきたことのなかった新しい来館者層も確保できた。展覧会後には、195点の出品作品がすべて寄贈され、当館が写真の分野にもコレクションを広げる嚆矢となった。関連事業として行った2回の講演会は、どちらも定員を大幅に上回る盛況ぶりで、高名な写真家に対する関心の高さを知ることができた。展覧会カタログは

資料部分を充実させることで、東松に関しては近年でもっとも資料的価値の高いカタログになった。



展覧会カタログ：

A4判変形（29×22.4cm）272ページ

編集：牧野研一郎、古田浩俊、鯨井秀伸

発行：愛知県美術館、中日新聞社

関連事業：

○記念講演会

6月2日（金）18：00～

講師 東松照明、飯沢耕太郎（写真評論家）

演題 「東松照明＝原風景を語る」230名

7月8日（土）13：30～

講師 森山大道（写真家）

演題 「森山大道、東松照明を語る」254名

○展示説明会（ギャラリー・トーク）

6月17日（土）11：00～ 講師：牧野研一郎 22名

6月23日（金）11：00～ 講師：古田浩俊 10名

7月8日（土）11：00～ 講師：牧野研一郎 22名

7月21日（金）11：00～ 講師：古田浩俊 30名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

6月17日(土) 15:00～ 講師:古田浩俊 30名

○友の会会員のための特別鑑賞会

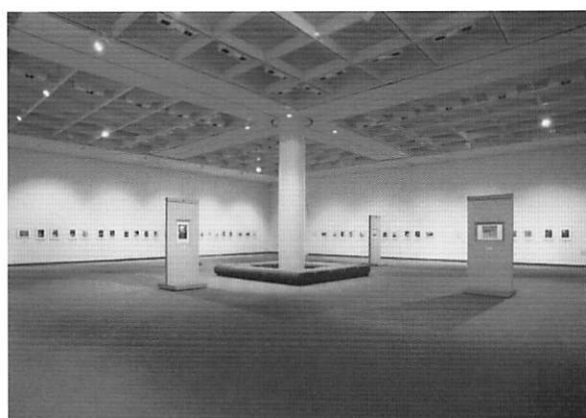
6月8日(木) 10:00～ 牧野研一郎 17名

6月22日(木) 17:30～ 古田浩俊 17名

○友の会共催事業

7月15日(土) 10:00～

「日光写真を撮ろう」(ワークショップ) 31名



主要関連記事:

【雑誌記事】

牧野研一郎 (談)「長期滞在型の写真家東松照明の根っこです」

『芸術新潮』

牧野研一郎 「東松照明」『A A C』2006年6月

東松照明インタビュー:「東松照明の原風景」

『リア』14号 2006年7月20日

楠本亜紀 展覧会レビュー「アクチュアルな視点の原点」

『美術手帖』2006年8月号

【新聞】

星野のりこ 「戦後日本の原点に迫る」

『東愛知新聞』2006年5月17日

市川政憲 「そこにあった戦後」『中日新聞』2006年5月18日

(無記名) 「東松照明『愛知曼陀羅』」『長崎新聞』2006年5月

(無記名) 「50～60年代の街角 切り取る」

『朝日新聞』2006年5月31日夕刊

(無記名) 「戦後日本の原風景195点」『朝日新聞』6月2日

(無記名) 「きょうから東松照明展」

『中日新聞』2006年6月2日

(無記名) 「『課長さん』の娘と再会」

『中日新聞』2006年6月3日

森村陽子 「この人 東松照明さん」

『中日新聞』2006年6月7日

加納典明 「東松照明展にみる昭和歳時記(上)」

『中日新聞』2006年6月7日夕刊

赤瀬川原平 「東松照明展にみる昭和歳時記(下)」

『中日新聞』2006年6月8日夕刊

遠藤恒雄 「戦後復興の明暗195点」

『名古屋タイムズ』2006年6月9日

古田浩俊 (作品解説)『中日スポーツ』

2006年6月11日から7月2日にかけて計19回連載

前田恭二 「家郷の喪失、強烈な視線」

『読売新聞』2006年6月22日

馬場駿吉 「野性の目」『朝日新聞』2006年6月26日夕刊

隅崎稔樹(写真) / 森村陽子(文)

「50年前の光1 焼き物の町・瀬戸」

『中日新聞』2006年6月27日

隅崎稔樹(写真) / 森村陽子(文)

「50年前の光2 名古屋・円頓寺商店街」

『中日新聞』2006年6月28日

隅崎稔樹(写真) / 森村陽子(文)

「50年前の光3 『潮騒』舞台の神島」

『中日新聞』2006年6月29日

(無記名) 「[中日春秋]『中日新聞』2006年6月30日

隅崎稔樹(写真) / 森村陽子(文)

「50年前の光4 一色町」

『中日新聞』2006年6月30日

隅崎稔樹(写真) / 森村陽子(文)

「50年前の光5 四日市コンビナート」

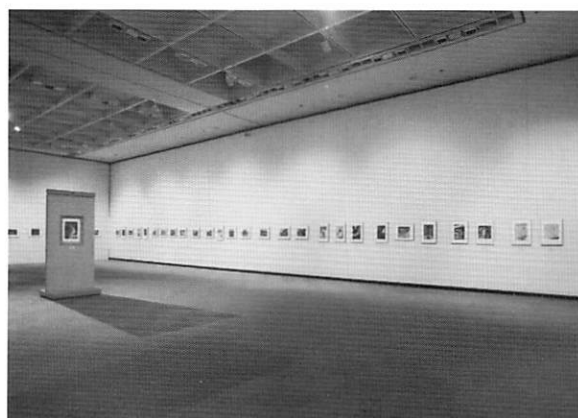
『中日新聞』2006年7月1日

牧野研一郎 (作品解説)『中日スポーツ』

2006年7月4日から7月15日にかけて計11回連載

飯沢耕太郎 「『戦後写真の巨人』の原風景」

『毎日新聞』2006年7月10日夕刊



『愉しき家』

会 期：2006年8月4日(金)～10月1日(日) 51日間
主 催：愛知県美術館／朝日新聞社／財団法人自治総合センター
後 援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
特別協力：日本ビクター株式会社
担当学芸員：坪戸雅彦、森美樹
総入場者数：13,831人（1日平均入場者数：271人）

内容と結果 出品点数115点

この展覧会では、「家」に関するさまざまな思考や表現が登場した70年代から現代までの、建築、絵画、立体、写真、映像といったジャンルを取り上げ、物故作家を含む国内外の17人の作品による「家」の形とイメージを紹介した。

現代美術は一般的に「難解」と思われがちであるが、今回の展覧会では、体験型の作品を加え、「家」という親しみやすい主題を通して、子供から高齢層にいたる幅広い客層が気楽に作品を鑑賞する機会を提供し、現代美術に対する強いアレルギーを払拭しようとした。体験型の作品の導入によって、鑑賞者が純粋に作品を楽しめる内容にすると同時に、現代美術の展覧会としてのクオリティの維持にも努めた。また、建築や写真などにもジャンルを広げ、美術ファンではない客層にも関心を持ってもらい、展覧会に足を運んでもらうことを目指した。全国の新聞や雑誌などでの展覧会評はどれも好意的であり、光田由里氏によって毎日新聞での年間のベストスリーの展覧会にも選定された。

展覧会の関連事業として、子ども対象のワークショップと、ダンスと音楽のパフォーマンスを行った。出品作家森北伸を講師に招いて行ったワークショップには応募が殺到し、県民のワークショップに対する高い関心を感じられた。このワークショップでは、参加者一人一人が思い思いの「家」を制作した。文化情報センターとの共催による、展示作品そのものを舞台に見立てたダンスと音楽のパフォーマンスは、複合施設である芸術文化センターならではの専門的な企画であり、今後の活動を考える良い機会になった。どちらの関連事業も参加者から好評を得た。

想定された入場者数には及ばなかったが、当館の現代美術のグループ展としては総入場者数が多かった。特に、無料入場者ではあれ、小中学生の比率が高かった。

展覧会カタログ：

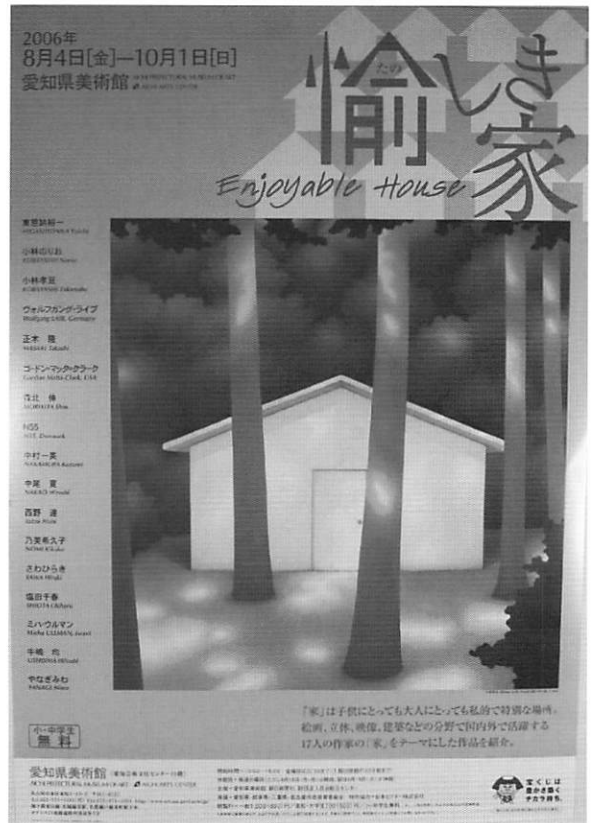
B 5（縦26×横19cm）

1冊目 88ページ

2冊目 108ページ

編 集：坪戸雅彦、森美樹

編集補助：野田直子、湯田文



関連事業：

○記念講演会

第1回 9月2日(土) 13:30～

講師 やなぎみわ(出品作家)

演題 「旅する家」118名

第2回 9月9日(土) 13:30～

講師 小林のりお(出品作家)、大嶋浩(写真評論家)

演題 「忘却の写真論 -変容する風景と写真-」43名

○展示説明会(ギャラリートーク)

8月12日(土) 11:00～ 講師: 拝戸雅彦 20名

8月26日(土) 11:00～ 講師: 拝戸雅彦 22名

9月16日(土) 11:00～ 講師: 拝戸雅彦 20名

9月23日(土) 11:00～ 講師: 拝戸雅彦 20名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

9月9日(土) 15:20～ 講師: 森 美樹 23名

○ワークショップ「わたしたちのたのしい家」

〈あいち子ども芸術大学〉

8月19日(土)・8月20日(日) 2日間ともに10:00-15:00

講師: 森北伸(出品作家)

場所: アートスペースA(19H)、

アートスペースE/F(20H) 34名

○パフォーマンス

9月10日 11:30-13:00、14:30-16:00

10階美術館展示室

講師: ジャン・サスポータス(ダンサー)+鈴木俊哉(リコーダー)、倉知可英+高木理恵+石川雅美(ダンサー)&中村新+田中美郷(パーカッション)、山崎広太(ダンサー)+齋藤徹(コントラバス) 150名

○県図書館協賛事業 8月16日～9月17日

「家」をよむ

場所: 県図書館4階フロア

○友の会会員のための鑑賞学習交流会

8月10日(木) 11:00～ 講師: 拝戸雅彦 7名

8月10日(木) 17:00～ 講師: 拝戸雅彦 15名

関連記事：

吉住琢二 「住む空間多様」『朝日新聞』2006年8月8日朝刊

島敦彦 「闇に浮かぶ不思議な光景」

『産経新聞』2006年8月30日号夕刊

宝玉正彦 「非日常が詰まった空間」

『日本経済新聞』2006年9月6日号

原久子 「かたつむり形の極小居住空間」

『アエラ』2006年9月11日号

樋口ヒロユキ 〈きんようぶんか観客席〉

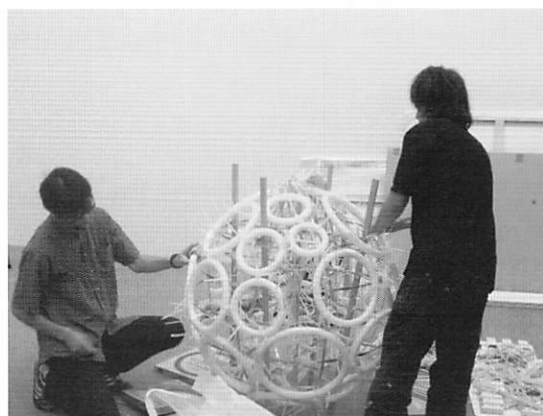
『週刊金曜日』2006年10月6日号

執筆者不詳 「居ながらにしてホームシック」

『いけ花龍生』2006年10月号

宮村周子 「旅をするように楽しむ「家」のパワー」

『Marie Claire』2006年10月号



『ペルシャ文明展』

会 期：2006年10月13日(金)～12月10日(日) [51日間]
主 催：愛知県美術館／朝日新聞社／東映／メ〜テレ (名古屋テレビ)／岐阜新聞／岐阜放送
後 援：外務省／文化庁／イランイスラム共和国大使館／中近東文化センター／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
協 賛：大日本印刷／ニッセイ同和損害保険
協 力：イラン国立博物館／イラン航空
企画協力：東京国立博物館
担当学芸員：高橋秀治、小栗恵子
総入場者数：62,194人 (一日平均入場者数：1,219人)

内容と結果 出品点数201点

今回の展覧会は紀元前5千年紀の土器類から、ササン朝ペルシャがアラブ勢力に滅ぼされた7世紀までの文物をイラン国立博物館を中心にすべてイランから借用して紹介したものである。まとまった紹介としては、およそ半世紀ぶりのことで、内容的にもこれまでイラン国外へ貸し出したことのないものが多数含まれていた。とくに出品物の見どころとしては、世界最初の帝国文明として知られるアケメネス朝ペルシャ(紀元前550年～前330年)時代の金製品(有翼ライオンの黄金のリュトンなど)やその首都のひとつである現在世界遺産に指定されているペルセポリスから出土した浮彫彫刻など。また、それよりさかのぼる初期都市文明時代の動物型土器や、青銅製の馬具などこの時期を代表するものが多数出品された。

内容的に充実した展覧会であり、愛知県美術館が普段あまりおこなわない文明展ということで、日頃美術館を訪れない人々や社会科の教師のグループなどの学校関係者の好意的な反応を感じたが、一方でペルシャ文明という一般的によく知られているとはいえない内容であること(ペルシャの文物に対する事前知識の少なさ)から、新聞紙面などの広報を積極的におこなったのに比して、期待した大量動員には結びつかなかった。しかしながら、愛知県下の小、中学校にたいしてはじめて全児童・生徒数分の無料観覧券を配布したことにより、土日の小・中生の入場者割合がかなり高く、時代を担う子供たちへの働きかけとしては一定の成果があった。また、関連事業としての講演会、映画会、サントゥールの演奏会などへの観客も多数集まり、好評であった。

展覧会カタログ：

A4判変形(27.0×22.5cm)196ページ

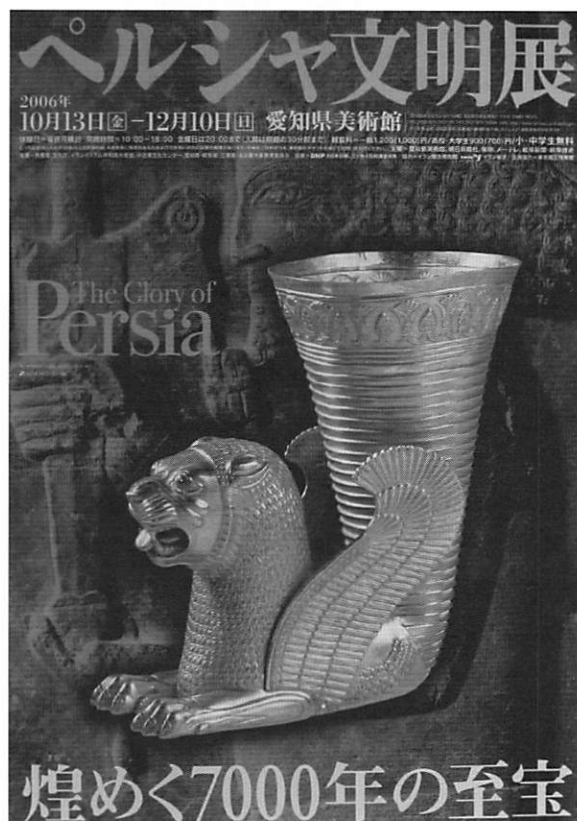
編 集 朝日新聞事業本部文化事業部／東映事業推進部

監 修 大津忠彦

(筑紫女学園大学文学部アジア文化学科教授)

後藤健(東京国立博物館上席研究員)

発 行 朝日新聞社／東映



関連事業：

○記念講演会

第1回 10月21日(土) 13:30～

講 師 大津忠彦

(筑紫女学園大学文学部アジア文化学科教授)

演 目 「ペルシャ古代文明とその国際性」160名

第2回 11月3日(金・祝) 13:30～

講 師 後藤 健(東京国立博物館上席研究員)

演 目 「ラピスラズリの道、王の道、絹の道」161名

第3回 10月22日(日) 16:00～

講 師 中西久枝(名古屋大学大学院教授)

演 目 「イランの中のペルシャー日常生活のペルシャ文化」105名

○イラン映画上映会

「桜桃の味」(カンヌ映画祭パルムドール受賞作)

アッバス・キアロスタミ監督 1997年

10月20日(金) 18:00-19:50 87名

「少年と砂漠のカフェ」

(ナント三大陸映画祭グランプリ受賞)

アボルファズル・ジャリリ監督 2001年

10月22日(日) 14:00-15:50 118名

『岐阜新聞』2006年10月12日 朝刊

「輝く帝国の威光200点」

『岐阜新聞』2006年10月13日 朝刊

「がんばってます岐阜県人 ペルシャ文明展に来て」

『岐阜新聞』2006年10月18日 朝刊

「“最古の帝国”威光示す ペルシャ文明展」

『岐阜新聞』2006年10月20日 朝刊

【雑誌】

『芸術新潮』2006年10月号

○「ペルシャ文明展」によせてー伝統楽器サントゥールの響き

(愛知県美術館友の会との共催事業)

11月23日(木・祝) 13:30-15:00 276名

○スライド・トーク

(学芸員によるスライドを使っての展示会の説明会)

*全てスライド・トークの講師は高橋秀治

10月13日(金) 18:00~ 参加者数:22名

10月28日(土) 11:00~ 参加者数:21名

11月11日(土) 11:00~ 参加者数:30名

11月17日(金) 11:00~、18:00~ 参加者数:20名、34名

11月21日(火) 11:00~、14:00~ 参加者数:15名、30名

11月23日(木・祝) 11:00~ 参加者数:60名

11月26日(日) 11:00~、14:00~ 参加者数:30名、60名

11月29日(水) 11:00~、14:00~ 参加者数:8名、48名

12月1日(金) 11:00~ 参加者数:52名

12月5日(火) 11:00~、14:00~ 参加者数:43名、48名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

10月21日(土) 15:20~ 講師:高橋秀治 27名

○友の会会員のための特別鑑賞会

第1回 10月19日(木) 17:30~ 講師:高橋秀治 24名

第2回 10月26日(木) 10:00~ 講師:高橋秀治 22名

関連記事:

【新聞】

「イラン大使「大変興味深い」ペルシャ文明展見学」

『朝日新聞』2006年11月15日 朝刊

「古代の技 匠を魅了」

『朝日新聞』2006年11月11日 夕刊

「ペルシャ文明展 輝く古代驚き・発見」

『朝日新聞』2006年11月17日 朝刊

「黄金の遺産 ペルシャ文明展

愛知県美術館あす開幕」



『ルソーの見た夢、ルソーに見る夢』

会 期：2006年12月20日(金)～
2007年2月12日(月・振休) 42日間
主 催：愛知県美術館／中日新聞社／NHK名古屋放送局／
NHK中部ブレンズ
後 援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
協 賛：大日本印刷／三井住友海上
担当学芸員：深山孝彰、木本文平、松山ひとみ
※8月以前までは村上博哉が担当
総入場者数：35,389人(一日平均入場者数：842人)

内容と結果 出品点数138点(巡回カタログ上は150点)

この展覧会は、フランス近代における異色の画家アンリ・ルソー(1844-1910)と日本の近・現代美術との関係を総合的に検討し紹介する初めての試みであった。

パリの入市税関で働いていたルソーは40歳を過ぎてから独学で絵を描き始めたが、晩年にはピカソや詩人アポリネールら前衛的な芸術家たちから称賛され、やがて近代美術の巨匠のひとりに位置づけられた。日本でも1910年代からルソーの作品と生涯が紹介され始め、フランスでルソーの芸術に魅了された画家やコレクターによって実作品が日本にもたらされた。そして大正から昭和にかけてルソーの影響は洋画・日本画・写真の多ジャンルにわたって大きく現れ、さらに現代の美術にまで及んでいる。本展では日本にあるルソーの作品と、彼に続くフランス素朴派の画家4人、そしてルソーに触発された日本人美術家たち35人による約140点を展示した。日本国内にある約30点のルソー作品から22点(各会場17点ずつ)の借用が叶い、また日本近代美術史の中でかなり著名な作品の数々にルソーの影響があったことを示すことができた。さらには範囲を現代にも広げたことで、現代美術に興味の薄かった観客層にも親しみをもってもらう効果も挙げられたように思われる。

集客には不利な年末のスタートではあったが、広報宣伝に加えて8階ギャラリーで開催された日展との相互割引や案内ビデオの設置なども試みた結果、予算上の目標であった34,000人を超える観覧者を得ることが出来た。また、川柳・俳句の募集や、NHKの協力による子ども向けのポップアップ・カードの制作などによって観客に楽しんでもらうことにも努めた。ただ、ポスターやちらしなどでサブタイトルとして「ルソー、素朴派と日本」と表示はしたものの、「ルソーの見た夢、ルソーに見る夢」という展覧会名にルソーの大規模展を期待した来場者からの不満の声もあり、今後は誤解を生みにくい名称や広報により留意する必要がある。

展覧会カタログ：

A4判変形(27.6×22.5cm) 232ページ

編集：世田谷美術館／愛知県美術館／島根県立美術館／東京新聞

制作：印象社

発行：東京新聞／NHK／NHKプロモーション



ROUSSEAU ENVISAGED:
Henri Rousseau and Japanese Artists

ルソーの見た夢
ルソーに見る夢

ルソー、素朴派と日本

ホーシヤン、オンホウ、藤田嗣治、岡倉之助、加山又造、横尾忠則ほか40作家の競演

2006年 12月20日(水) - 2007年 2月12日(月・日) 愛知県美術館

観覧時間：10:00-18:00(金曜日は20:00まで) 入場料：大人1,000円(中学生以下無料)
観覧料：大人1,000円(中学生以下無料) 観覧券：大人1,000円(中学生以下無料) 観覧券(中学生以下無料)
観覧券(中学生以下無料) 観覧券(中学生以下無料) 観覧券(中学生以下無料) 観覧券(中学生以下無料)

関連事業：

○記念講演会

1月20日（土）13:30～

講師 遠藤望（世田谷美術館 企画担当課長）

演題 「ルソーに見る夢 —近現代日本美術家たちのアンリ・ルソー」 131名

○展示説明会（ギャラリー・トーク）

12月23日（土・祝）11:00～ 講師：深山孝彰 22名

1月6日（土） 11:00～ 講師：深山孝彰 28名

1月20日（土） 11:00～ 講師：深山孝彰 34名

2月3日（土） 11:00～ 講師：松山ひとみ 44名

○フォーラム・イベント「和洋★夢のひろがり」

（愛知県文化情報センターとの共催事業）

通崎陸美マリンバ・トリオによる演奏

1月28日（日）15:00～

会場：10階フォーラム 約250名

○友の会会員のための特別鑑賞会

日時：1月11日（木）17:30～ 講師：深山孝彰 65名

1月18日（木）10:00～ 講師：深山孝彰 17名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

日時：1月20日（土）15:20～ 講師：深山孝彰 39名

○新春ことば遊び ルソーと見る夢

（展覧会に因む俳句と川柳の募集）

実施期間：1月6日（土）～1月28日（日）

展示室3後半部において筆記用具と短冊、掲示パネルと応募箱を設置し、来場者が自由に記入の上、パネル掲示か投函かを選択。期間終了後優秀作品を選考し、入選者に記念品を贈呈。

応募総数：446句

講師：浅野滋子（NHK文化センター講師）



ルソーの見た夢、ルソーに見る夢ルソー、素朴派と日本

点線を折って、牛やおじさんを立ててみよう。
立てると絵の奥行きがよくわかるよ。
どーもくやうさじいを立ててもいいよ。

ルソーの絵の世界を楽しもう!

アンリ・ルソー「牛(うし)がいる風景(いりけい)ーパリ近郊(きんこう)の牧(なかり)め、
ハニー村(むら) 1909年(ねん) 大原美術館(おおはら ひげつがん)

アンリ・ルソー
どーもくん うさじい
なーちゃん
ななみ

NHK 名古屋放送局

主要関連記事

【新聞】

・太田垣實（編集委員）

「近現代日本との豊かな交差」

『京都新聞』2007年1月13日 朝刊

・浅野和生（愛知教育大学教授）

「『素朴』満ちる個性 多彩な影響 後世に」

『朝日新聞』2007年1月23日 朝刊

3 教育普及

出版・発行

各企画展カタログ

○『愛知曼陀羅—東松照明の原風景—』展カタログ

A 4 判変形 (29×22.4cm) 272ページ

編集 牧野研一郎／古田浩俊／鯨井秀伸

発行 愛知県美術館／中日新聞社

制作 印象社

「東松照明—時の旅人」 市川政憲

「インターフェイス—東松照明の名古屋時代」 飯沢耕太郎

「愛知曼陀羅から東松照明曼陀羅へ」 馬場駿吉

図版

‘Tomatsu Shomei:Time Traveler’ Ichikawa Masanori

‘Toward the ‘Interface’:Nagoya years of Tomatsu Shomei’ Izawa Kotaro

東松照明の言葉Ⅰ 東松照明 監修、牧野研一郎、湯田文 編

東松照明年譜 牧野研一郎 編

東松照明の言葉Ⅱ 東松照明 監修、牧野研一郎、湯田文 編

展覧会歴 古田浩俊

東松照明主要文献目録 野田直子、鯨井秀伸

出品目録

○『愉しき家』展カタログ

B 5 (26×19cm) 1冊目88ページ、2冊目108ページ

編集 拝戸雅彦、森美樹

編集補助 野田直子、湯田文

発行 愛知県美術館

一冊目

「愉しむ家」 拝戸雅彦

図版

作家データ

出品リスト

二冊目

会場図

図版

解説と作家によるテキスト

○『ペルシャ文明展』カタログ

A 4 判変形 (27.0×22.5cm) 196ページ

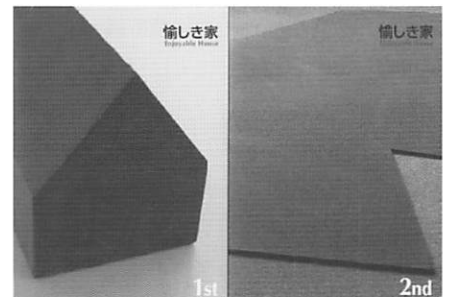
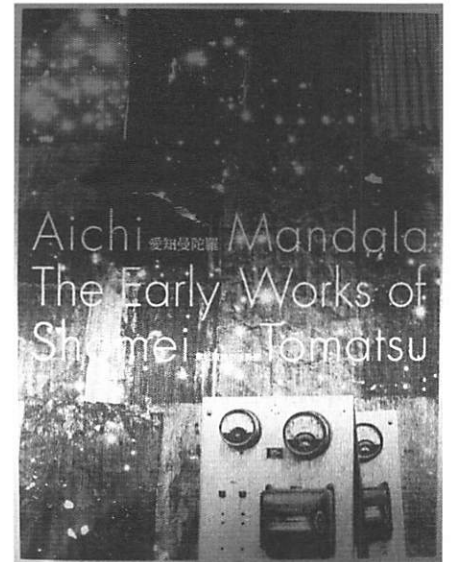
監修 大津忠彦 (筑紫女学園大学文学部アジア文化学科教授)

後藤 健 (東京国立博物館上席研究員)

編集 朝日新聞事業本部文化事業部／東映事業推進部

編集協力 中近東文化センター

制作 印象社



発行 朝日新聞社／東映

「イラン旅行の思い出」 三傘宮崇仁

「ペルシャ古代文明理解のために」 大津忠彦

図版

第一部 イラン最古の都市群

第二部 ペルシャの帝国文明

イランの世界遺産

「道の文明——イラン高原の古代都市群——」 後藤健

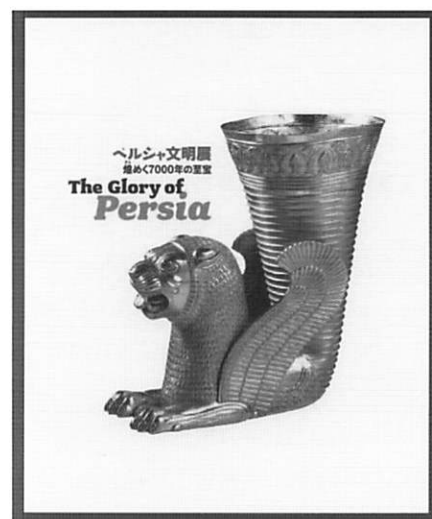
「最古の帝国アケメネス朝ペルシャの興亡」 後藤健

「シルクロードが結ぶ日本とペルシャ」 大津忠彦

用語解説 足立拓朗

参考文献

作品リスト



○『ルソーの見た夢、ルソーに見る夢』展カタログ

A 4判変形 (27.6×22.5cm) 232ページ

編集 世田谷美術館／愛知県美術館／島根県立美術館／東京新聞

執筆 酒井忠康、遠藤望、高嶋雄一郎、石崎尚、村上博哉、葛谷典子、柳原一徳

制作 印象社

発行 東京新聞／NHK／NHKプロモーション

「ルソーの見た夢、ルソーに見る夢」について 酒井忠康

「ルソーの1世紀——アンリ・ルソーと日本の近・現代美術」 遠藤望

「清澄な夢——松本竣介とアンリ・ルソー」 村上博哉

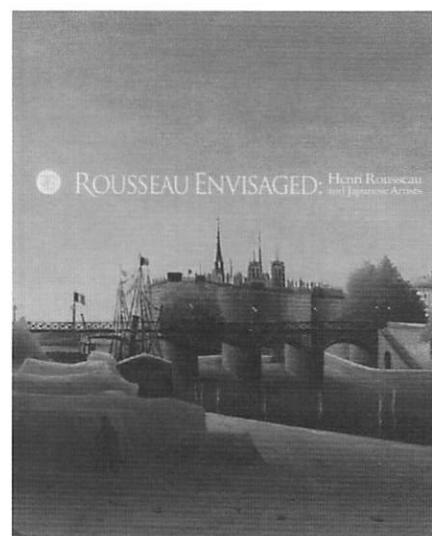
「アンリ・ルソー憧憬——植田正治と日本光画協会の写真家たち」 葛谷典子

アンリ・ルソー年譜 石崎尚

展覧会関連年表 石崎尚

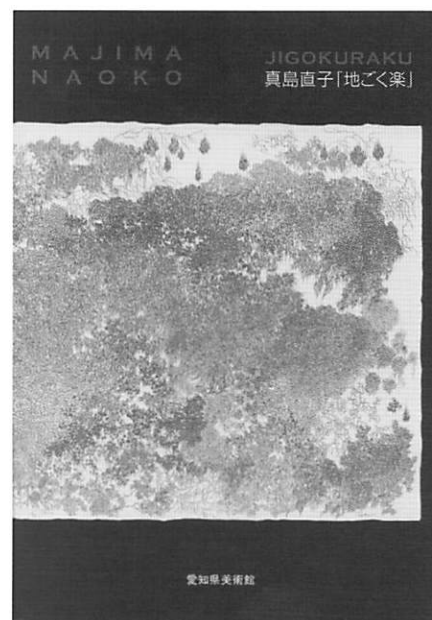
参考文献 高嶋雄一郎

出品目録



○テーマ展（小企画展）

テーマ展「真島直子『地ごく楽』」小冊子 A 4判4色6ページ



所蔵作品展

○所蔵作品展 作品リスト

第Ⅰ期・前期 展示作品リスト A 4判2ページ

第Ⅰ期・後期 展示作品リスト A 4判2ページ

第Ⅱ期・前期 展示作品リスト A 4判3ページ

第Ⅱ期・後期 展示作品リスト A 4判2ページ

第Ⅲ期 展示作品リスト A 4判2ページ

○所蔵作品ワークシート（高学年向）

・ミュージアムワークシート「高橋由一《不忍池》」 A 4判三つ折

・ミュージアムワークシート「パウル・クレー《女の館》」 A 4判三つ折

○木村定三コレクション関係

- ・リーフレット「木村定三コレクション」 A 4 変形観音四つ折
- ・概要書『木村定三コレクション』 B 5 判変形 (26×19cm) 48ページ
- ・『木村定三コレクション研究報告書1』 B 5 判変形 (26×19cm) 80ページ
- ・鑑賞カード (1点ごとの解説) A 5 判 15種類
与謝蕪村《富嶽列松図》 浦上玉堂《山紅於染図》 浦上玉堂《秋色半分図》
伊藤若冲《六歌仙図》 小川芋銭《若葉に蒸さるる木霊》
長谷川利行《ノアノアの少女》 熊谷守一《土饅頭》 熊谷守一《蒲公英に蝦蟆》
熊谷守一《蝦蟆に蟻》 香月泰男《風船売り》 須田剋太《東大寺落慶供養》
《志野茶碗 銘 鵬》《大井戸茶碗 銘 明の井戸》《石造三尊仏龕像》
《四区袈裟禪文銅鐸》
- ・ビデオ番組「木村定三コレクション——感銘を求める旅——」 17分

○企画展の鑑賞ガイド

《木村定三コレクションの江戸絵画》

鑑賞ガイド (画家と活動地域、露出展示の説明など) B 5 判 4 ページ

《愛知曼陀羅 東松照明の原風景》

鑑賞ガイド (東松照明の言葉、年譜) A 4 判 4 ページ

《愉しき家》

愉しむためのガイド (作家紹介、こどもガイド) A 4 変形蛇腹四つ折

《ベルシャ文明展》

鑑賞ガイド (略年表と地図、章解説と代表作品解説) A 4 判 4 ページ

《ルソーの見た夢、ルソーに見る夢》

鑑賞ガイド (各章内容説明、ルソー年譜、素朴派作家解説) A 3 判三つ折

《若き日の美術家たち》

鑑賞ガイド (各章・節の解説) A 4 判 4 ページ

講演会等

○企画展の記念講演会

企画展ごとに研究者や作家あるいは学芸員などが記念講演会を行った。各講演会とも高い関心を集めた。

愛知曼陀羅 東松照明の原風景：

①「東松照明＝原風景を語る」

東松照明（写真家）、飯沢耕太郎（写真評論家）6月2日（金）230人

②「森山大道、東松照明を語る」森山大道（写真家）7月8日（土）254人

愉しき家：

①「旅する家」やなぎみわ（出品作家）9月2日（土）118人

②「忘却の写真論—変容する風景と写真」

小林のりお（出品作家）×大嶋浩（美術評論家）9月9日（土）43人

ペルシャ文明展：

①「ペルシャ古代文明とその国際性」

大津忠彦（筑紫女学園大学文学部アジア文化学科教授）10月21日（土）160人

②「ラピスラズリの道、王の道、絹の道」

後藤 健（東京国立博物館 上席研究員）11月3日（金・祝）161人

③「イランの中のペルシャ—日常生活のペルシャ文化」

中西久枝（名古屋大学大学院教授）10月22日（日）105人

ルソーの見た夢、ルソーに見る夢：

「ルソーに見る夢—近現代日本美術家たちのアンリ・ルソー」

遠藤 望（世田谷美術館 企画担当課長）1月20日（土）131人

○レクチャー&トーク「現代作家 自作を語る」シリーズ

所蔵作品の紹介に重点をおくように、作品が当館に所蔵されている現存作家に自らの制作活動や作品について語ってもらった。昨年度に引き続いての開催である。

シリーズ6 細井 篤 2月24日（土）15：00—15：45 25人

シリーズ7 染谷亜里可 3月3日（土）15：00—15：45 25人

シリーズ8 沢居 曜子 3月10日（土）13：30—15：45 25人

シリーズ9 竹田 大助 3月24日（土）13：30—15：45 25人

シリーズ10 杉戸 洋 3月31日（土）15：00—15：45 50人

○特別講座

友の会が中心となって、より深い作品理解を促す講座を行った。

①「人間国宝の世界 —陶芸を中心として—」

仲野泰裕（愛知県陶磁資料館学芸部長）9月17日（日）36人

②「彫刻家 若林奮を巡って」吉増剛造（詩人）、関口涼子（詩人）、司会進行：馬場駿吉（俳人、評論家）

9月18日（月・祝）75人



東松照明氏



森山大道氏



やなぎみわ氏



大津忠彦氏



後藤 健氏



中西久枝氏

○公開シンポジウム

木村定三コレクションの存在と、作品の調査、情報管理、保存の重要性をより広く普及させるために、多数のパネリストを招待してシンポジウムを行った。

「作品をまもり、伝える美術館—ある仏画(木村定三コレクション)の修復をめぐる」

村田真宏(愛知県美術館美術課長)、泉 武夫(東北大学教授)、
岩永てるみ(画家、愛知県立芸術大学講師)、竹上幸宏(修美 修復部部长)
11月4日(土) 163人

【関連掲載記事】

・森村陽子

「“裏方”の活動知る機会に 新しい情報公開のあり方」

『中日新聞』2006年11月15日(水)

○出前講座

美術館まで頻繁に行くことが難しい地域でも美術に親しめるよう、学芸員が出前講座を行った。

- ① 9月5日 北設楽郡豊根村(豊根村其幹集落センター)
「美術の楽しみ方」木本文平 30名
- ② 10月10日 新城市(設楽原歴史資料館)
「美術の楽しみ方」村田真宏 20名
- ③ 2月3日 豊田市(高橋交流館)
「ルソーの見た夢、ルソーに見る夢」展の見どころ」深山孝彰 20名
- ④ 3月3日 幡豆郡一色町(一色町公民館)
「美術の楽しみ方」木本文平 40名
- ⑤ 3月25日 海部郡七宝町(七宝町七宝焼アートヴィレッジ)
「美術の楽しみ方」木本文平 30名

○展示解説会(ギャラリートーク、スライドトーク)

各企画展に際し、担当学芸員が解説などを行った。

(詳細については企画展記録を参照)

- 『愛知曼陀羅 東松照明の原風景』展示説明会(ギャラリートーク) 全4回
- 『愉しき家』展示説明会(ギャラリートーク) 全4回
- 『ベルシャ文明展』展示説明会(スライド・トーク) 全15回
- 『ルソーの見た夢、ルソーに見る夢』展示説明会(ギャラリートーク) 全4回



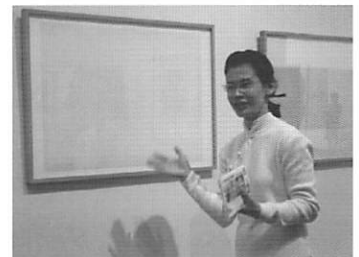
遠藤 望氏



細井 篤氏



染谷亜里可氏



沢井曜子氏



竹田大助氏



公開シンポジウム

各種プログラムなど

小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

企画展毎に展覧会担当者による説明会を行うと同時に、美術館や学校での鑑賞教育についての実践事例発表や報告などを通して意見交換をした。また、第6回では展覧会図録のバックナンバーを学校図書館へ寄贈した。

	月日	時間	主な内容	発表者	参加者数
1	4月22日	15:00	『総合的な学習 美術館をつくろう ～鑑賞学習を柱にした図画工作科と 総合的な学習の台科の試みを通して～』	中山知恵子 (美浜町立河和小学校)	34
2	6月17日	15:00	パズルでアート 「ひまわりをかこう」 「視点を絞る」ルネサンスの魅力	小澤江里 (一宮市立向山小学校) 小林克敏 (半田市立成岩中学校)	30
番外	8月25日	16:30	「夏休み子ども鑑賞会」見学、反省会		
3	9月9日	15:20	「平成18年度 美術館を活用した鑑賞教育の 充実のための指導者研修」 (於：東京国立近代美術館)を 受講しての報告	森美樹 (愛知県美術館学芸員) 小崎 真 (豊明市立豊明小学校) 岡島叔子 (尾張旭市立 東栄小学校) 浅尾知子 (愛西市立草平小学校) 小栗恵子 (愛知県美術館学芸員)	23
4	10月21日	15:20	「夏休み子ども鑑賞会」 報告 教員研修としての 「夏休み子ども鑑賞会」参加 報告 「平成18年度 校内現職教育研修(美術鑑賞)」 (於：愛知県美術館) 報告	小栗恵子 (愛知県美術館学芸員) 岡島叔子 (尾張旭市立 東栄小学校) 中山知恵子 (美浜町立河和小学校)	27
5	1月20日	15:20	「第45回東京都図画工作研究大会(北多摩)」 報告および 「鑑賞学習ワーキンググループの活動」報告	高橋秀治 (愛知県美術館 主任学芸員)	39
6	3月10日	15:30	・愛知県美術館の鑑賞について 寄贈図録配付 寄贈図録名：第五期 ①抽象表現主義展 ②全所蔵作品目録 ③20世紀美術の冒険 第四期※前回は不参加の学校のみ ①関根正三展 ②菱田春草展 ③韓国の色と光展	高橋秀治 (愛知県美術館 主任学芸員)	65



鑑賞学習交流会

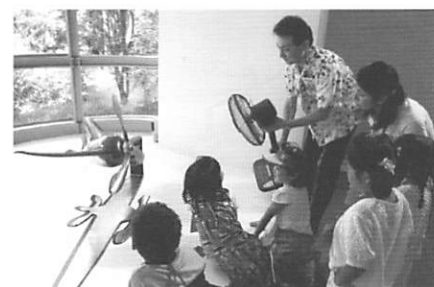
鑑賞学習ワーキンググループの活動

「鑑賞学習交流会」をより充実した内容にするために、鑑賞学習に関心の高い教員を中心に募り、美術館とともに研究を始めた。その成果は、交流会や美術館のホームページなどで発表し活性化に反映されている。

	月日	主な内容	参加者数
準備会	2月8日	鑑賞学習ワーキンググループの発足について	12
1	3月25日	鑑賞学習、あるいは授業に活用した補助教材について事例研究	11
2	4月22日	第1回鑑賞学習交流会を振り返って。(総合学習の中に位置付けられた鑑賞教育の事例「美術館を作ろう」)	12
3	5月13日	鑑賞学習、あるいは授業に活用した補助教材について。「(パズルでアート」「アートカードを使った事前学習と美術館見学を組み合わせた実践」) 所蔵作品へのアプローチ 海老原喜之助《雪山と熊》	10
4	6月17日	鑑賞学習、あるいは授業に活用した補助教材について。「なにに見えるエルンスト《ポーランドの騎士》」 所蔵作品へのアプローチ クブカ《灰色と金色の展開》	16
5	7月22日	鑑賞学習、あるいは授業に活用した補助教材について。「(アートゲームで8つの像の表情の表現を感じ取ろう)」	16
番外	8月25日	夏休み子ども鑑賞会 見学・反省会、一部の先生はガイド役を務める。	9
6	9月9日	鑑賞学習ワーキンググループの今後の在り方について	
7	10月21日	愛知県美術館所蔵作品を使ってのギャラリートーク実践のための事前協議	11
8	11月18日	愛知県美術館所蔵作品を使ってのギャラリートーク (舟越桂《肩で眠る月》、猪熊弦一郎《地図の中の日曜日》、ジム・ダイン《芝刈機》) の実践	15
	(2007年)		
9	1月20日	愛知県美術館所蔵作品を使ってのギャラリートークを振り返って検討会	11
10	2月24日	愛知県美術館所蔵作品を使ってのギャラリートーク (クレー《女の館》、瑛九《黄色い花》、白髪一雄《作品》) の実践	12



鑑賞学習ワーキンググループ



子ども鑑賞会

児童、生徒を対象とした活動

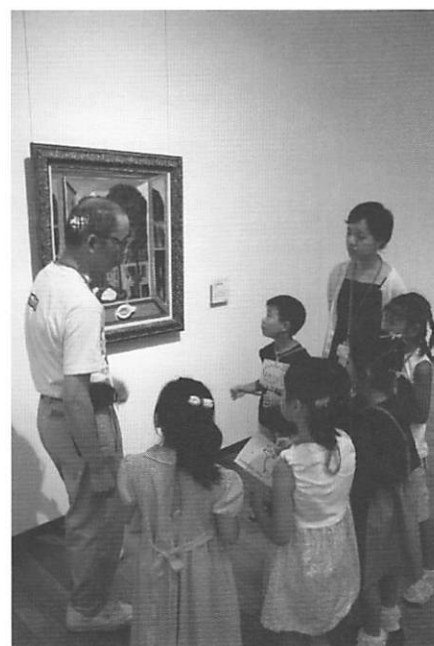
○夏休み子ども鑑賞会〈あいち子ども芸術大学〉

夏休み子ども鑑賞会は、数人のグループに分かれた子ども達と、学芸員や学生が、一緒に美術作品を鑑賞してまわり、互いの意見や感想を述べ合うプログラムである。本年度からは、2006年に創設された「あいち子ども芸術大学」の加盟事業となり、従来以上に広報の範囲が拡大された。また、インターンシップ推進支援センターからの学生2名、学芸員研修生2名、小・中・養護学校の教員5名と学芸員が中心となって実施した。また、小学校1・2年生の回については、愛知県美術館友の会にケアスタッフを特別にお願いし、双方が安心して参加できる環境を整えた。

	午前(10時～12時)の部	午後(2時30分～4時30分)の部
8月4日(金)	①小学 1・2年生 18名	②小学 3・4年生 16名
8月11日(金)	③小学 3・4年生 19名	④小学 5・6年生 20名
8月17日(木)	⑤小学 5・6年生 9名	⑥中学 7名
		⑫小学 1・2年生 11名
8月22日(火)	⑦中学 7名	⑧小学 1・2年生 17名
	⑩小学 1・2年生 14名	
8月25日(金)	⑨小学 3・4年生 19名	⑬小学 5・6年生 10名
		⑬小学 3・4年生 6名

参加人数 合計173名 ⑩、⑫、⑬は要望が多く寄せられたため増設。

協力：愛知県美術館 友の会



子ども鑑賞会

○親子イベント＝ワークショップ

「東松照明展」にあわせた日光写真を撮るワークショップと、「愉しき家」展の出品作家による家をモチーフとしたワークショップを行った。特に後者のワークショップでは、参加人数をはるかに超える非常に多くの参加希望者が出た。

- ・「日光写真を撮ってみよう」（友の会共催事業）

7月15日（土）10：00～ 31人

- ・「わたしたちのたのしい家」〈あいち子ども芸術大学〉

8月19日（土）・8月20日（日）2日間 10：00～15：00

講師：森北伸 参加人数：34人



日光写真ワークショップ

視覚に障害のある人を対象とした鑑賞会

○視覚に障害のある方へのプログラム

視覚に障害があっても、美術作品の面白さを味わえるように、実際に作品に触れるだけでなく、立体コピーやガイドボランティアとの意見交換を取り入れた作品鑑賞を行った。所蔵作品展の中から、クリムト《人生は戦いなり》、ドイツ表現主義の絵画と彫刻、日本の彫刻家による人体と顔を主に扱った。

9月28日 12人 午前：8人 午後：4人

9月30日 20人 午前：11人 午後：9人

【関連掲載記事】

阿部伸哉（中日新聞社会部）：

記者たちの現場「目の不自由な人たちの美術鑑賞 想像力で絵も見える」

『中日新聞』2006年10月28日（土）県内版



「わたしたちのたのしい家」
ワークショップ

○盲学校の児童・生徒対象の鑑賞会

夏休みの1日を午前・午後に分けて実施。所蔵作品展のほか、企画展「愉しき家」で作品の中に入ることでできるものを鑑賞した。

開催日 参加者 午前、午後の内訳

8月24日 11人 午前：8人、午後：3人

○中学校の総合学習の受入れ指導

2006年11月8日（水）小牧市立桃陵中学校1年生80名

アートスペースAで講義の後、展示室で生徒が7グループに分かれ、5人の視覚障害者に絵の説明をした。

各種団体鑑賞への対応

	小	中	高	大	専門	養護	一般	合計
人数	1163	995	194	858	146	30	549	3935
件数	30	56	7	12	5	1	20	131
件数	15	9	4	8	1	0	9	46
学芸対応人数	757	256	59	648	31	0	264	2015

2006年度のなかでも団体の申し込みの多かったペルシャ文明展は、スライド・トークの回数を増やすなどかなりの数への対応に努めた。しかし一方で、11月以降、小中

学校を中心に学校行事にからんだ申し込みが多くなりつつある。特に、例年集中する2月前後は、毎年の恒例行事として、学校のプログラムの継続事業となり定着している状況もみえ増加傾向を示している。

博物館実習生の受け入れ

実習生 10名 実習実施期間：2006年7月31日(月)～8月4日(金) 5日間

(愛知県立芸大学2名、愛知淑徳大学・桜花学園大学・金沢美術工芸大学・静岡大学・成安造形大学・東北芸術工科大学・名古屋芸術大学・武蔵野美術大学 各1名、全員女子。)

美術館研修生、インターンシップの受け入れ指導

美術館研修生

2006年度は、名古屋大学の大学院生6名を受け入れ、1週間に1日を基本として長期的な研修を行った。

- ・研修期間 2006年6月1日～2007年3月31日
- ・研修内容 藤井達吉コレクション・木村定三コレクションの資料整備、企画展に関わる実務、教育普及事業の実務

学芸員研修

碧南市が開設を準備している美術館の学芸員を3ヶ月間受け入れ、実務研修を行った。研修期間 2006年6月1日～8月31日

インターンシップ

「東海地域インターンシップ推進協議会」によるインターンシップ事業として、美術館では夏休み期間の教育普及事業を実習する学生を募集し、愛知淑徳大学と南山大学の学生各1名を受け入れた。

- ・研修期間 2006年7月28日～8月31日
- ・研修内容 「夏休み子ども鑑賞会」の運営業務(実施準備、教材等の作成、鑑賞指導)、「愉しき家」展の鑑賞会補助

美術館友の会との協力

平成18年度事業概要：

○特別鑑賞会の実施

愛知曼陀羅 —東松照明の原風景— 6月8日、6月22日

愉しき家 8月10日（昼夜2回）

ペルシャ文明展 10月19日、10月26日

ルソーの見た夢、ルソーに見る夢 1月11日、1月18日

若き日の美術家たち 3月1日（昼夜2回）

※各回とも担当学芸員によりスライドを用いた説明の後、展示室で鑑賞。



サントールの響き

○友の会の主催した主な講演会、イベント

2006年6月9日、16日

「ルネサンス美術——三大名作を読む」 森田義之（愛知県立芸術大学教授）

2006年7月15日

ワークショップ「日光写真を撮ってみよう」

2006年8月11日、18日、25日、9月1日

「ナイトカフェ」 甚目裕夫（イタリア村音楽監督）プロデュース

2006年9月17日

「人間国宝の世界—陶芸を中心として—」 仲野泰裕（愛知県陶磁資料館学芸部長）

2006年9月18日

「彫刻家 若林奮を巡って」 吉増剛造（詩人）、関口涼子（詩人）

司会進行：馬場駿吉（俳人、評論家）

2006年11月23日

「ペルシャ文明展」によせて——伝統楽器サントールの響き

2007年2月3日、2月17日、2月24日

日本美術「浮世絵の精華」 神谷浩（名古屋市美術館学芸課長）

2007年1月13日

テーマ展 真島直子「レクチャー&ギャラリートーク」

2007年3月17日

講話「美術の森」 講師：市川政憲



友の会特別鑑賞会



○広報事業ほか

会報『空中回廊』第23号（2006年9月）、第24号（2007年3月）の発行

企画展ポスター、ちらし等の宣伝材料の配布



所蔵作品に関すること

- 市川政憲
 - ・「木村定三コレクションが美術館に残したもの」
『木村定三コレクション研究報告書1』2007年3月
- 村田真宏
 - ・「木村定三コレクションの寄贈から今日まで」
『木村定三コレクション研究報告書1』2007年3月
- 村田真宏、古田浩俊
 - ・「受け入れ作業と登録業務」
『木村定三コレクション研究報告書1』2007年3月
- 鯨井秀伸
 - ・「資料知識のカタログニング方法論：情報多様性と標準」
『木村定三コレクション研究報告書1』2007年3月
 - ・『木村定三コレクション作品目録 2006年度版』
愛知県美術館 2007年3月
 - ・『木村定三コレクション作品目録 CD-ROM版』
愛知県美術館 2007年3月
- 長屋菜津子、村田真宏
 - ・公開シンポジウム「作品をまもり、伝える美術館—ある仏画（木村定三コレクション）の修復をめぐる」運営並びに報告

企画展に関すること

- 市川政憲
 - ・「東松照明 一時の旅人」
『愛知曼陀羅 一東松照明の原風景』2006年6月
- 牧野研一郎
 - ・「東松照明年譜」「東松照明の言葉Ⅰ、Ⅱ」
『愛知曼陀羅 一東松照明の原風景』2006年6月
- 古田浩俊
 - ・「東松照明展覧会歴」
『愛知曼陀羅 一東松照明の原風景』2006年6月
- 鯨井秀伸
 - ・「東松照明主要文献目録」
『愛知曼陀羅 一東松照明の原風景』2006年6月
- 村上博哉
 - ・「清澄な夢 一松本竣介とアンリ・ルソー」
『ルソーの見た夢、ルソーに見る夢』2006年10月
- 拝戸雅彦
 - ・「愉しむ家」「作家解説」（17人分）
『愉しき家』（2006年8月）所収
 - ・「彫刻家ミハ・ウルマン 大地の空虚」
『リア』no. 15, 2006年11月
- 深山孝彰、馬淵美帆
 - ・作品解説

『プライスコレクション 若沖と江戸絵画』2006年6月

- 森美樹
 - ・「愛知県美術館のこの1点 ピエール・ボナール《にぎやかな風景》」
『ルドンとその時代 鑑賞ガイドブック』岐阜県美術館 2006年

教育普及活動に関すること

- 高橋秀治
 - ・「愛知県美術館における教育普及活動について 学校との連携を中心の一活動報告とその考え方」『愛知県美術館研究紀要』第13号（2007年3月）

作品の保存等に関すること

- 長屋菜津子
 - ・「近現代美術館とカビ害 愛知県美術館の事例を中心に」文部科学省主催、第3回カビ対策専門家会合 2006年7月18日
 - ・「保存処置について」『木村定三コレクション研究報告書1』2007年3月（池田素子、志水明子、共著）

美術館運営に関すること

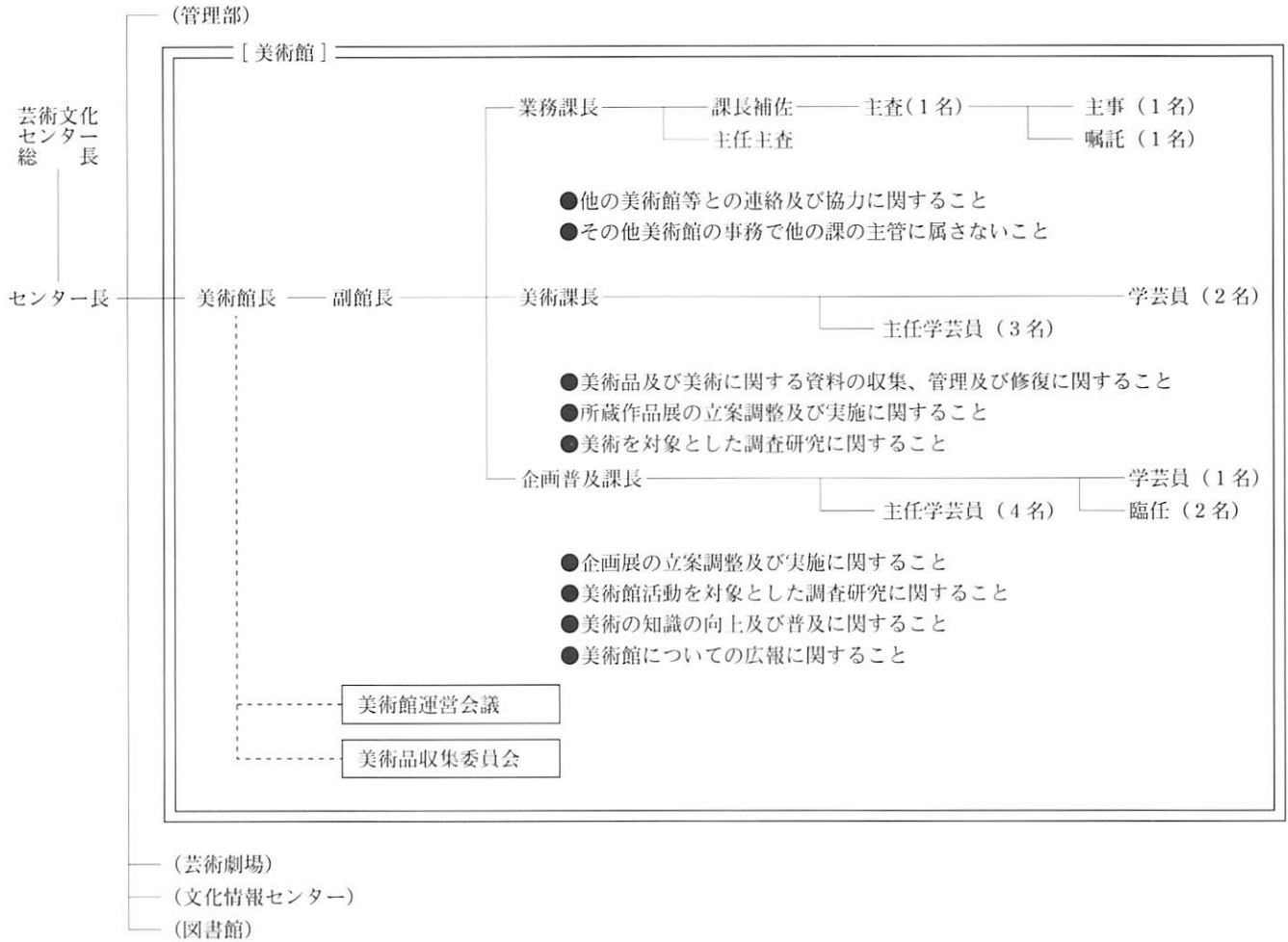
- 村田真宏、高橋秀治、村上博哉、奥村正
 - ・「美術館に関する事務事業評価の検討報告」2007年3月

その他

- 牧野研一郎
 - ・「加納光於のオブジェ展拾遺」『水声通信』
- 高橋秀治
 - ・「視点と認識 伊藤利彦展一箱の中の空一」
展評『リア』no. 14, 2006年7月
- 深山孝彰
 - ・レビュー「吉本直子展」『リア』no. 14, 2006年7月
- 拝戸雅彦
 - ・「光としてそのまま掬い取ること—絵画の発明者ナルキッソスとアルベルティの『絵画論』」『愛知県美術館研究紀要』第13号（2007年3月）
- 馬淵美帆
 - ・『「高雄観楓図」の制作年代再考—歴博乙本『洛中洛外図』の系列の図様との関わりから』『美術史家、大いに笑う—河野元昭先生のための日本美術史論集』（ブリュッケ）
 - ・『「見立て絵」の記号論的研究』『鹿島美術研究』年報第23号別冊
- 森美樹
 - ・「ギャラリーレビュー 名古屋エリア」
『美術手帖』2006年6月号～2007年5月号
 - ・『Naoko Yoshimoto “life in death” used clothing works』
解説 2006年

組織および職員構成

1. 組織図



2. 愛知県美術館職員名簿

館長	市川政憲	技師(学芸員)	馬淵美帆
副館長	牧野研一郎	技師(学芸員)	森美樹
業務課長	清水和彦	企画普及課長	木本文平
課長補佐	奥村正	主任学芸員	高橋秀治
主任主査	高木久子	主任学芸員	村上博哉(2006年9月退職)
主査	岩田三千代	主任学芸員	深山孝彰
主事	石黒康二(2007年2月退職)	主任学芸員	揮戸雅彦
嘱託	森明美	技師(学芸員)	藤島美菜
美術課長	村田真宏	臨任(学芸員)	小栗恵子
主任学芸員	古田浩俊	臨任(学芸員)	松山ひとみ
主任学芸員	鯨井秀伸		
主任学芸員	長屋菜津子		

関係委員会名簿

美術館専門委員会委員名簿

	氏名	職名(所属)
	浅野 徹	名古屋芸術大学教授
○	江本 菜穂子	名古屋造形芸術大学教授
◎	島田 章三	愛知県立芸術大学学長
	鷺見 卓	中日新聞社事業局文化事業部長
	建 畠 哲	国立国際美術館館長
	鶴 田 善久	名古屋市立左京山中学校校長
	野々川 房子	メナード化粧品株式会社常務取締役
	三 浦 定俊	東京文化財研究所企画情報部長 (副所長)
	宮 崎 玲子	愛知県美術館友の会会長
	渡 辺 豊彦	名古屋市美術館館長

◎は会長、○は会長職務代理

(50音順)

愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

	氏名	職名(所属)
◎	黒田 亮子	美術評論家(西洋美術、日本近代美術)
	尾崎 正明	東京国立近代美術館副館長 (日本近代美術)
	浅野 徹	名古屋芸術大学教授(日本近代美術)
	吉田 俊英	奈良県立美術館副館長 (日本近世・近代美術)
○	山梨 俊夫	神奈川県立近代美術館館長 (近現代美術)

◎は会長、○は会長職務代理

(50音順)

愛知県美術館年報2006年度版

2008年3月発行
 編集 愛知県美術館
 発行 愛知県美術館
 名古屋市東区東桜1-13-2 〒461-8525
 PHONE : 052-971-5511
 FAX : 052-971-5604
 表紙デザイン・本文レイアウト 松田幸司、山口浩司
 印刷 栄印刷株式会社

2006 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art

Edited by Aichi Prefectural Museum of Art

Published by Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura Higashiku, Nagoya, 461-8525, Japan

Designed and layouted by Koji Matsuda, Koji Yamaguti

Printed by Sakae Printing Co.,Ltd

©2008

Printed in Japan